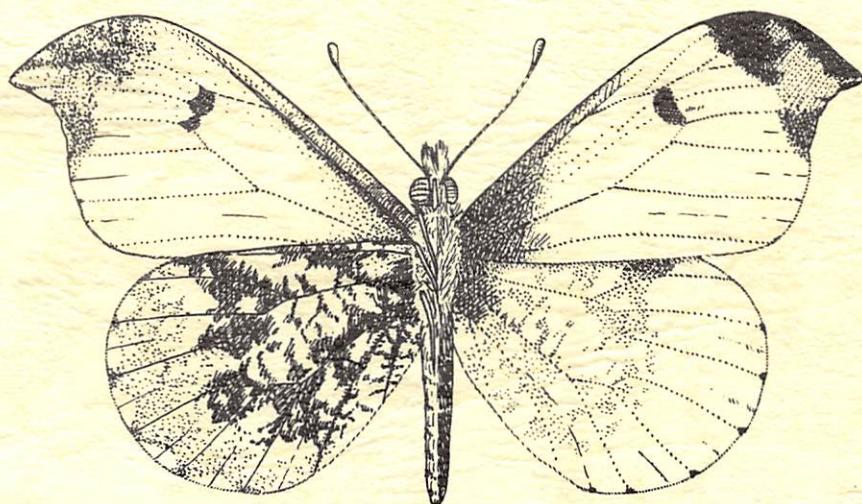


IRATSUME

1994

NO.18



但馬むしの会

但馬むしの会会則

1. この会は、但馬むしの会と称する。
2. この会は、但馬地方の昆虫研究（昆虫相の解明等），および会員相互の親睦をはかることを目的とする。
3. この会は、その目的を果たすために次のことをする。
 - (1) 会誌IRATSUME（年1回）の発行
 - (2) 採集会などの催し
4. この会は、昆虫に興味をもち、会の目的に賛同する人は誰でも入会できる。
5. 会員は、会を維持するため、年額（3,000円）を負担しなければならない。
6. 会員は、会誌などの配布を受け、またこれに投稿することができ、催しに参加することができる。ただし、会費滞納が2か年以上継続し、通知しても連絡のないときは自然退会とみなす。
7. この会を運営していくため、本部に事務局をおき、会の代表とする。
8. 総会は年1回とし、役員改選、会則の改正など、会の運営上の重要事項を審議する。議決は、出席者の過半数の賛成を必要とする。
9. この会の会計年度は、暦年とする。

《 目 次 》

永幡嘉之：但馬の蝶6題	1
高橋寿郎：カナブンの色彩変異と分布について	5
永幡嘉之：但馬のカミキリムシ 1993	16
広畑政己：オオムラサキの新産地	42
永幡嘉之：浜坂町久斗山のゼフィルスの記録	43
永幡嘉之：浜坂町城山，初秋の蝶	44
永幡嘉之：ウスバシロチョウの分布調査	46
上田尚志：但馬におけるトンボの採集記録（2）	48
上田尚志：円山川下流域におけるヒヌマイトトンボの分布	51
佐藤邦夫・永幡嘉之：兵庫県におけるルリクワガタ属の分布について	52
永幡嘉之：但馬における甲虫数種の採集記録	56
谷角素彦：関宮町で採集されたミヤマクワガタ雌雄型	58
永幡嘉之：美方町のアカネクスジトラカミキリ（2）	59
上田尚志：キンカメムシ亜科2種の採集記録	62
上田尚志：エゾゼミ属 <i>Tibicen</i> 3種の採集記録	63
永幡嘉之：但馬におけるヒメハルゼミとクチキコオロギの記録	64
高橋寿郎：ヒトクチタケとキカイガラタケ および各種キノコにて採集した甲虫	65

表紙：ツマキチョウ
（左・裏面，右・表面）
足立義弘・画

但馬の蝶 6 題

永幡嘉之

1993年の但馬での蝶類の採集・観察記録のなかから、いくつかの事柄を報告しておきたい。

1. キバネセセリ *Bibasis aquilina* の採集記録 (写真 1・2)

1992年に続き (永幡, 1993) 本年もまた2頭を採集することができた。

美方郡浜坂町城山	1 ♂	24-VII-1993	永幡嘉之
村岡町川会	1 ♂	9-VIII-1993	永幡嘉之

浜坂町城山ではリョウブに、村岡町川会ではカラスザンショウに、それぞれ曇天の日中に飛来していた。従来の採集記録が極めて少ないのは、活動条件が限られるためであろう。センノキは浜坂町居組の海岸部などには極めて多く、また但馬全域で標高を問わず広く分布している樹木である。本種も個体数は少ないながら、広く分布しているものと思われる。

2. ウラナミジャノメ *Ypthima motchulski* の採集記録 (写真 3)

但馬では採集記録の極めて少ない種とされていた (広畑, 1981) が、地元の人には産地が知られていたようであり、安達 (1980) には一見普通種を思わせるような記述がある。本年、浜坂町城山で発見した。

美方郡浜坂町城山	3 ♂♂	1-VIII-1993	永幡嘉之
----------	------	-------------	------

発生地は海に面した急斜面で、水のしたたる草付である。周囲は樹林に覆われており発生地の面積は狭い。しかし成虫は広く見られるので、各所に発生地が点在しているのかもしれない。これまでヒメウラナミジャノメばかりと思い込んでよく注意していなかったものである。なお発生は年1回と思われ、1993年は低温のためか、8月29日になお第1化と思われる汚損個体が観察された。

浜坂町の低地には、他にも多くの産地があることと思われる。

3. イシガケチヨウ *Cyrestis thyodamas* の4月の採集例 (写真 4)

最近、山陰海岸で東進が注目されている種である。春季の採集例は、但馬では

これが初めてかと思われる。

美方郡浜坂町城山 1♀ 13-IV-1993 永幡嘉之

本個体が同地で越冬したものかどうかは不明だが、同年の夏の観察では一時的な発生はおろか、成虫すら観察できなかった。しかし、1992年同地で目撃されたという話を聞いている。食草となり得るものとして、自生のイヌビワとイタビカズラ、人家のイチジクの3種が考えられ、前2者はともに量も多い。

4. ヒオドシチヨウ *Nymphalis xanthomelas* の越夏・休眠の観察例

前号で山小屋での休眠を報告した（永幡，1993）が、本年もいくつかの場면을観察することができた。

その1. 1993年4月16日 美方郡浜坂町城山

海岸の西向き斜面につけられた遊歩道沿いの、高さ2m前後の崖で、テイカカズラが密生してオーバーハング状になっている部分に、16時54分、1頭の本種が潜り込むのを観察した。静止した場所はよく確認できなかったが、叩き出すと再び同じ行動をとった。活動は3月より始まっており、これは睡眠場所に潜り込んだ個体だと思われた。

その2. 1993年7月1日 美方郡浜坂町観音山

曇天の15時45分頃、観音山山頂で、登山道沿いのスダジイ根際にできた小さな崖の下に1頭の本種が潜り込み、歩行して仰向けに静止し、翅を数回開閉してからじっと動かなくなるのを観察した。

その3. 1993年8月17日 鳥取県岩美郡岩美町河合谷高原

県境からわずかに鳥取県寄りの牧場の、草原のなかに孤立しているミズメ生立木の洞内の朽ちた部分を崩したところ、奥の空間に3頭の本種が仰向けにじっと静止していた。天候が悪く、下山を急いだため細かな観察はできていないが、全く動く様子はなく休眠中と思われた。なお、崩す前は静止位置は外部からは全く見えなかった。

その4. 1993年10月28日 鳥取県八頭郡八東町扇ノ山山頂（写真5）

当日は快晴で、気温も高かった。午後2時頃、扇ノ山山頂小屋内の窓際でバタバタ翔っている本種2頭と、窓の枠に仰向けにとまってじっと休眠している本種1頭とを観察した。付近は既に落葉が終わりに近づき、夜間の気温の低下が予想された。

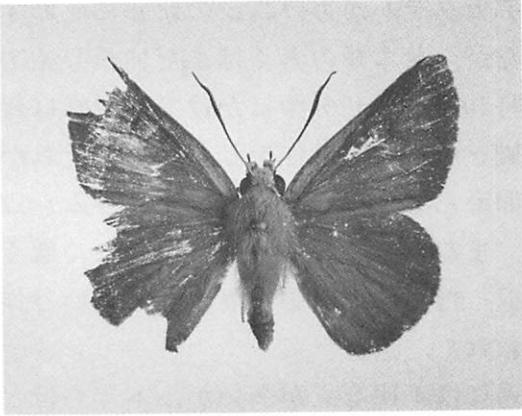


写真1

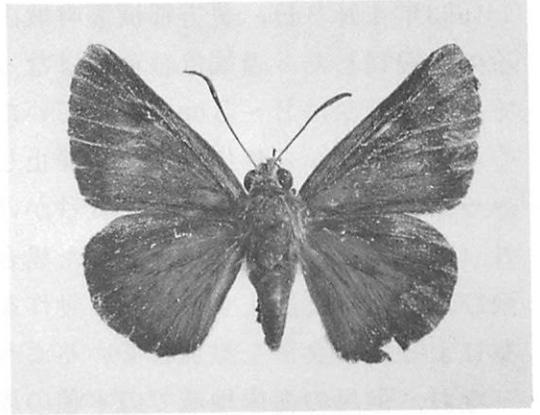


写真2

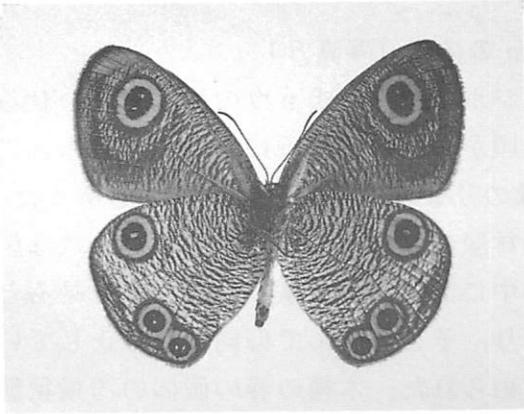


写真3

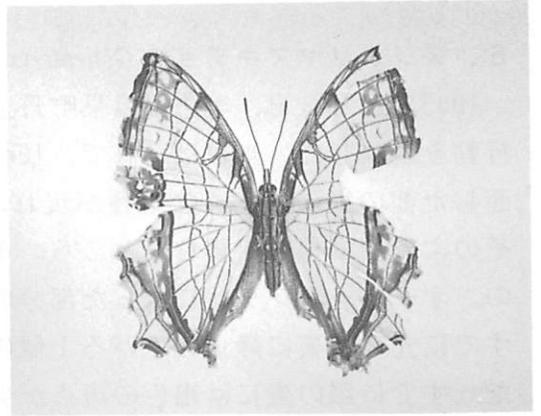


写真4



写真5

写真6

写真7

写真8

5. アカタテハ *Vanessa indica* の産卵観察例 (写真6・7)

1993年4月3日、美方郡浜坂町城山で、アカタテハがカラムシの新芽に産卵するのを観察した。道端は緑色にはなっていたが、草本類の多くはまだ伸長し始めで、カラムシは2～3cmになっていた。13時20分から40分頃にかけて、母蝶は緩やかに飛びながら無作為に草に静止し、前脚を震わせる動作をしたのち、それがカラムシであった場合は2～3秒かけて1卵産んですぐ飛び立った。カラムシ以外(スイカズラなど)に静止した場合には、また飛び立っては落ち着きなく低く飛び、他の草に静止するという動作をくり返した。この前脚を震わせるという作業によって、食草を識別しているように思われた。

なお、但馬の海岸地域での本種の周年経過には不明な点が多いが、本年もほとんど観察ができずじま이었다。

6. スジボソヤマキチョウ *Gonepteryx aspasia* の休眠 (写真8)

1993年11月3日、美方郡温泉町丹土でスジボソヤマキチョウの休眠を思わせる行動を観察した。当日は晴れで、10時30分頃から11時30分頃にかけて、雑木林に面した池の堤防に次々に本種が現れ、林縁の lindow で吸蜜する個体もあった。そのような本種を追跡したところ、1頭が林縁のコナラの根際に生じた小さな崖の、オーバーハング状になった部分の草の中に潜るのが観察された。よく見るとすでに先に葉裏に静止している1個体があり、そこに並んで仰向けに静止していた。すでに翅の裏には褐色の斑点が少し認められた。本種の春の個体の汚損状態には通常とは異なった越冬場所を想わせるものがあり、興味あるところだが、その後の追跡はできていない。

参考文献

- 広畑政己 (1981) 兵庫県に於けるウラナミジャノメの分布と生活史,
てんとうむし 7:1-5.
安達留二郎 (1980) 但馬(北但)地方蝶類目録, IRATSUME 4:43-50.
永幡嘉之 (1993) 但馬の蝶10題, IRATSUME 17:1-7.

カナブンの色彩変異と分布について

(兵庫県昆虫相資料・286)

高橋寿郎

カナブン *Pseudotorynorhina japonica* (Hope) は、有名なシーボルトが日本で採集した標本(産地不明)をライデンの De Hann が F. W. Hope に送り、*Rhomborrhina japonica* Hope と新種記載された(Hope, 1841)。これが本種に学名が与えられた初めである。

Burmeister (1842) は *Rhomborrhina opalina*, *R. clypeata* の 2 新種を Japan 産で記載しているが、ともにカナブンのことである(中根(1979)は1976年にライデンの自然史博物館でシーボルトが日本で採集したクワガタムシを中心にした甲虫を調べた結果を発表しているが、どの種も日本の詳細な産地を記していない。そのような記録はないのかもしれない。また最近、上田(1970)がシーボルトの標本を調べ、その結果を発表している。いろいろ参考になるが、具体的な甲虫についての報告はない)。

Motschulsky (1860) は日本から *Rhomborrhina clypeata* Burmeister を記録したが、日本の産地名は記されていない。

Waterhouse (1875) は "*Rhomborrhina japonica* Hope, very common in all the islands" と記し、初めて本種が日本では普通種であるという記事が出てくる。

具体的な本種の日本での記録はそれまで出てこなかったのであるが、Harold (1876) は Hiogo (神戸) 産を初めて報告している。ついで、Heyden (1879) も Hiogo 産 1 ♂ 4 ♀ を記録している(Hiogo は神戸のことであり、採集者は当時神戸にいた Lenz という商人)。

その後もヨーロッパ人による本種の記録はあり、具体的な産地と産出状況などについて詳しく報告されたものとしては、Kolbe (1886) がある。その報告では "In Japan auf allen Inseln und auch in China gefunden. Fusan-Söul 6. Juli-15. August. 1884" と日本と中国の産を報じるとともに朝鮮での産地を明記している。Lewis (1887) は *Rhomborrhina clypeata* Hope, *R. sequammulifera* Thoms., *R. glauca* Thoms. を全て *R. japonica* のシノニムに処理している。同時に *R. japonica* について "This

variable species is extremely abundant, and on tree Mr. Pryer has taken 125 specimens in twenty-four hours”と初めて具体的な数字を示して本種が非常に多くいることを報告している。

松村(1898)には、本種は図もついて学名は *Rhomborrhina japonica* Hope で出てくる(p. 173)。これが邦人による初の図での紹介になるのではないだろうか。松村(1906)でも図示をしており、これは日本で初めての図鑑図示になると考えられる(p. 81, pl. 47, f. 5)。

Arrow(1913)の論文では、本種には単に学名だけが与えられて(*Torynorrhina* 属)、なんらコメントはついていない。

Schenkling(1921)の W. Junk Coleop. Cat. にも *Rhomborrhina* (*Rhomborrhina*) *japonica* で示されている。Südchina : Kiang-si から記載された *R. ignita* Nonfr. は、本種のシノニムにされている。

新島・木下(1923)では記載文とともに産地として China, Korea (Fusan-Söul), Japan (very common in all the islands), 熊本, 東京, 熱海, 秩父, 京都, 播磨が示されており、同時に“本種は最も普通種なるも北海道に産せず。変種の記載されたものあり。即ち var. *clypeata* Burm. にしてその形短く幅広きものなり。しかれども予等の標本にては形状, 色彩において多少の変化を認む以外特に区別し難い”と述べている。

Okamoto(1924)は濟州島の昆虫相をまとめたが、そのなかでカナブンについて次のように記している。“*Rhomborrhina japonica* Hope. Only one specimen taken by the author and T. Kurisue in late June, this is closely allied to the typical Japanese form. It is relatively rare in Korea, but very common on all the islands of Japan. Found also in China (Kolbe).”

カナブンには形が短く幅広のものがいたり、色彩の変化が若干あるという点は新島・木下(1923)も述べているが、加藤(1933)による原色図鑑でカナブンの変種としてアオカナブンの色彩をした標本が図示されている。小寺(1933)は、カナブンにはアオカナブンと色彩的に非常によく似た個体があり、両者の区別は困難であると図を入れて紹介した。しかもその文中で、カナブンは色彩変化に富んでいて、クロカナブンとしか思われなような藍黒色でカナブンの域を脱しているもの、さらにはほとんど赤色に近いものがあると記している。

その後、色彩変化についてどのような関心があったのかを文献によって眺めて

みることにする。もっとも十分な文献を所有していないので、はなはだ不十分なものとなっている。

関 (1933) では“ルリカナブン (仮称) *Rhomborrhina* sp. クロカナブんとアオカナブンの間のようなもので全体黒藍色で前胸背は明らかに藍色である。1928年採集せるものでそれ以来得たことなし。クロカナブンの変種かと思われるが不明”とされている。

蓮見 (1934a) では“コンイロカナブン (仮称) *Rhomborrhina* sp. 1933. 8. 2 に採集せるものにして全く黒藍色にして前胸背は藍色、後翅の色はクロカナブンよりアオカナブンに似る。先に関公一が Vol. 1, No. 3 に書かれた甲虫目録中のルリカナブン (仮称) ならんか?”としている。関 (1934) は“*Rhomborrhina nigra* Saunders アオグロカナブン”と学名までつけて記録している。これは加藤 (1933) に図示されているものによっていると考えられ (実際は光沢がこれほどでなく体型も異なる)、“*Rhomborrhina japonica* には変化多く、その色彩・体長にも種々のものがある。*R. unicolor* と同様の色彩を有するものも居る”といったコメントもついている。

加藤 (1935a) はカナブンの色彩変化について“カナブンの一種で全体が暗赤紫色のものが時々アヲグロカナブン (?) として記録されるが、これはカナブンの変種で、真のアヲグロカナブン *R. nigra* Saund. は翅鞘端が強く棘状に突出しているので明瞭に区別出来る”とし、加藤 (1935b) では“茶褐色又は青茶褐色、時として著しく緑色を帯ぶるもの又は青紫色のものもある”と記している。

福田 (1935) は宇都宮付近での観察記録として“カナブン *Rhomborrhina japonica* Hope 変種の記録。全体暗青紫色を呈するもので、今迄各地よりアヲグロカナブン (?) として報告せられたるものを指すもので、今夏市外峯高農付近の櫟林にて2頭採集す。黒羽町付近にて現在まで7頭採集せられて居り、これから推して本種の当地方に於ける分布は比較的多いようである”と報告している。

樋田 (1937) は三重県の本種について“sp. アカカナブン (仮称)、カナブンに類似するも美麗なる赤紅色を呈し、別種と思はれる。或はカナブンの変種ならんか”と報告している。1930年代は、わりとカナブンの色彩変化についての報告を見ることができる。

石田 (1973) は“伊豆式根島のカナブンでは色彩はすべて緑色に赤銅色を帯びる型で、その中に赤味の強いもの (特に翅鞘の赤いもの) が2♂1♀あった。す

べて緑色を基調とするものであり、本州で稀にみられるアオカナブンに類するような緑色ではなく、これよりうすい感じである”としている。

さらに石田・伊藤（1976）は“伊豆諸島のカナブンは、緑色を基調としてこれに銅～赤銅色光沢をおびるもの、全く緑色のもの、銅～赤銅色でわずかに緑色をおびるもの、本州のものの変異の範囲に入るものである”とかなり詳しく色彩変化に言及している。

図鑑類には本種の色彩変化について言及したものがあまり見当たらないが、伊賀（1955）では色彩変化を“通常褐色味をおびた青銅色光沢のものが多く、著しく赤味を増すものより青味をおびた一見アオカナブンに似たもの、また稀に紫藍色光沢をおびるものまである。樹液に集まるとごく普通の種である（属名は *Torynorrhina* - 筆者注）”と解説している。

日高（1982）では、カナブンの色彩変化と題し、基本型・緑色型・赤色型の色彩変異があるとして、この3型のカラー写真が出ている。

黒沢（1985）では、カナブンについて“つやのある唐金色、赤または緑を帯びることが多く、ときに全体が赤銅色、緑色、藍色、藍黒色、赤黒色を呈す。樹液熟果に集まる”と解説している。

戦後、特に最近では、各地での本種の記録はあっても、その色彩変化について詳しくとりあげた報文はあまり目にすることがなくなったような気がする。これは本種が日本全土に産する最普通種（実際にはそうではないようだが）であることが災いして、あまりこの種について関心が払われていない結果と思われる。都市周辺では戦前に比較して、比較的個体数が減少したというか目にふれる機会が少なくなってきていることも原因のひとつかとも思う。

ところで兵庫県産の色彩変化については、それほど顕著な変化が見られない。緑色を基調として全体が赤銅色、緑色といった一般的な変化が見られるが、赤色が強いといった傾向のものはほとんど見られない。だがそれらに混じって、かつて関（1934）が名づけたアオグロカナブンにぴったりの色彩をした個体が得られている。並べると、色彩ではカナブンと同一種と思われないような藍黒色の色彩をした個体群である。このようなカナブンは全国的に見られるものかどうかよくわからない。筆者の手許にあるのは、次の個体である（いずれも兵庫県産）。

能勢妙見山（1♀，1982-VII-30）。川西市多田（1♂，1959-VII-16）。神戸市

鳥原 (1 ♀, 1965-VIII-8, 1 ♂, 1966-VIII-7), 須磨天上川 (1 ♂, 1939-VIII-18).
 明石市明石公園 (1 ♂, 1978-VI-29, 1 ♀, 1978-VII-12). 加東郡社町三草 (1
 ♀, 1989-VII-6).

多くのカナブンのなかで、非常に目立った異なる色彩のものが得られている。これは単に突発的に出てくるものなのか、それともこのような色彩のものがある程度出てくるものなのかよくわからない。広い範囲での多産地の個体によって色彩変化のパターンがあるのかどうかを調べると面白そうではあるが、かなり困難な点があろう（最近、大阪のS社からカナブンの色彩変化ということで和歌山県有田郡湯浅町山田で採集されたカナブン15♂9♀-5♂3♀ 1993年7月10日, 5♂3♀ 1993年7月21日, 5♂3♀ 1993年7月30日採集-を送ってもらった。色彩変化があり大体において兵庫県に産するものと同じくらいの変異のように思われるが、なかにかなり赤味がかったものが2♂3♀あり、うち1♀は特に赤味がかっていた。このような標本は兵庫県下で採集したものではほとんど見たことがない。御坊市亀山産1♂1♀ (1993・VII・10) は緑～青色として送ってもらったが、筆者が前に記した兵庫県産の藍黒色の個体はより濃藍黒色を呈しているものである)。

さて、カナブンの分布はどうであろうか。Waterhouse (1875) が “very common all the islands” と書いて以来、日本では普通種ということで現在にいたっているが、本当に日本全国に普通にいるのだろうか。

カナブンは北海道には分布していないというのが定説のようであるが、古く次のような記録がある。柳田 (1939) は函館近傍湯ノ川 (1936・VIII・7) を記録して “北海道より最初の報告である” とのコメントもつけている (もっともMotschulsky (1860) が記録しているのは産地不明。Motschulsky の使用した材料は北日本、北海道産のものが多いようである)。アオカナブンの同定間違いということが考えられないこともないが (アオカナブンは北海道に分布しているようである)、近縁のクロカナブンも北海道にいないとされていたが、20年以上も前に採集されていたという記録 (函館産) が最近発表されている (荒木, 1991)。カナブンは確実に北海道に分布していると断言できる資料は現時点ではないように思われる (北海道を分布に入れた報文は竹内 (1940) があり、図鑑類では平山

(1940)がある。松村(1931)では“北海道に産せざる如し”と書かれている。最近では Mikšić (1977)も北海道を産地として記録している)。

ついで東北地方はどうであろうか。筆者が文献調査をした限りでは、青森県と秋田県でのカナブンの記録には出会っていない。岩手県は竹内(1940)の報告に“殻斗科植物の樹液に集来するもあまり多からず”とあり、産地データなどがまったくない。

宮城県の記録は、次のようなものがあった。山路(1935)には種名のみにてコメントなし。渡辺(1937)には“カナブンは僅か1♀(宮城県・金華山島)しか採集出来ていない”とある。宮城県仙台第二高等学校生物部の報告(1987)では“カナブン7-8月”とあって、産出についてのコメントはない。吉越(1987)は仙台北西丘陵(北山)のクヌギの樹液から1ex.を記録している。渡辺(1989)でも、カナブンは少ないのか、東根と荒島の2例しか収録されていない。

山形県は、板垣(1964)によると“カナブン(*Torhorrhina*属), 低山地, 平地”とあるが、具体的な記録その他コメントがない。桜井(1984)によると、カナブン酒田山-飯森山, 鶴岡市-金峰山の2例のみで、産地についてのコメントはない。酒田市の飯森山, 周辺のクリ林にアオカナブン, カナブン, クロカナブンの3種が豊産していたが、近年はクロカナブン, カナブンの2種の姿をほとんど見るができなくなったともある。

福島県は、蜂谷(1976)によると、カナブンは夏の盛りに雑木林の樹冠上を飛ぶこともあるとしているが、具体的な産地は示されていない。さらに真黒川流域に産するというのでカナブンの名は出ている。

新潟県の記録は、中根・馬場(1960)にわりあいと多く見られ、Echigo: Shibata, Niigata, Mt. Yoneyama, Is. Awashima. Sado : Suhunegi, Katabe, Kawamoto, Mt.Donden. Ogawara-toge, Suizu, Tassha, Matsugashiがあげられている。長島(1978)は、新潟県西蒲原郡巻町角田山麓にカナブンがいると記録している。小池(1982)は、佐渡島と粟島を含む県下各地に分布するとカラー写真をつけて記録している。

以上のように、宮城、福島、新潟県には多い少ないはあるものの分布しているようであるが、青森県と秋田県でのカナブンの記録を見ることができなかった。最近、青森県在住の尾崎俊寛氏から東北地方のカナブンの分布についての情報を頂いた(1992・8 私信)が“青森県では採集したこともないし記録もないのではないか、山形県の記録はあるが名前だけなのであまりはっきりしない、岩手県

と秋田県に関してはおそらくいないものと思う”とのことであった。

次に、関東地方あたりまでの記録のいくつかを眺める。

茨城県では、日置(1973)によると“カナブン (*Torynorrhina japonica*) 多い”とある。小倉(1988)は水戸市の記録を1例あげているが、産出についてのコメントがついていない。

栃木県では、蓮見(1934a)は“アヲグロカナブン *Rhomborhina nigra* Saunder. 栃木県那須郡黒羽字堀之内地内でケバネカナブンに酷似して著しく赤褐色のカナブンを採集”という面白い解説をしている。また、前掲の福田(1935)がある。稲泉(1972)の記録では和名だけしか出てこない。

群馬県では、小板橋(1935)が“カナブン発生期6月上旬より9月上旬までの間、クヌギ又はナラの樹間に多数集合し樹液を吸収し居るのを多く見る。極めて普通種なり”と報じている。須田(1985)は沼田市、伊勢崎市の記録を行なっているが、コメントはない。

埼玉県では、戸田市立郷土博物館(1989)にコメントはついていないが2カ所の産地が記録されている。

富山県では、田中(1939)による古い記録があるが、こちらも種名のみで山地帯に産するというコメントがあるのみ。

千葉県では、沼田・大野(1985)には単に種名のみ。山崎(1985)では産地は多く記録してあるがコメントはない。

東京を中心とした関東地方、伊豆諸島、伊豆半島には、カナブンはまず普通にいるのではないだろうか(野村, 1969, 石田, 1973~1986)。

長野県では、降旗(1979)が述べているようにカナブンは暖かい地方に分布する種類で、県南部の伊那地方、木曾地方などでみることができるといった状況のようである。

そしてここから西南の本州各地には普通にいる種となるようであり、その分布は石田・藤岡(1988)によると、本州、粟島、佐渡、伊豆(大島、利島、新島、式根島、神津島)、四国、高知沖ノ島、九州、奄岐、平戸島、対馬、大隅黒島、屋久島、済州島、朝鮮半島、中国となる。

日本では屋久島が一番南の分布地のようである。朝鮮の状況はKim(1978)によると割合広く分布しているようであり、個体数もそれほど少ない種ではないように思われる。Mikšić(1977)の有名なモノグラフによると、検視標本のな

かに Hokkaido 1 ♂, Taiwan 1 ♂ 2 ♀ といった注目すべき標本があることがわかる。台湾に本種が分布していることを報じているのは、この論文以外知らない。中国大陸ではどのように分布しているのかよくわからないが、Mikšić (1977) はわりと産地を書いている。中央から南のほうに広く分布しているのではないだろうか。筆者の手許にも中国産カナブンと思われる標本が何頭かある。♂交尾器は日本産のものとあまり違いはないが、厳密に見ると若干の相違が見られる(個体数が少ないので色彩変化についてはあまり目立った点は見られない)。また、ベトナム北部には亜種 *ssp. tonkiniana* (Reuter, 1965) を産し、筆者の手許にも 2 ♂ がある。こちらの♂交尾器のほうが日本産により似ているが、やや光沢があり色彩は緑色を地に若干赤味がかかった色をしている。

分布がかなり広い種であり、中国大陸あたりにも多く産するのではないかと考えられる。日本では北海道ならびに青森、秋田県あたりの分布状況がよくわからない種である。台湾に分布しているかどうかよくわからない。日本に普通に見られる種といえそうであるが、全国的に普通種とはいえないと考えられる。自然変化、環境変化で都市部あたりでは次第にお目にかかり難くなったり、なりつつあるようにも思われる。

(付記) 本校脱稿後、酒井 (1993) による美しいカラー図版付きの“日本および台湾産のカナブン類”なる論文が発表された。そのなかでカナブンの色彩変異についても言及しているし、島嶼においてわずかながら地理的な変異も認められるといった興味ある記述もある。分布については北海道には分布せず、東北地方でも稀のようであるとも述べている。

参考文献

- 荒木 哲 (1991) 北海道からのクロカナブンの記録, 月刊むし (250):14.
 Arrow, J., (1913) Notes on the Lamellicorn Coleoptera of Japan and Descriptions of a few Species, Ann. Mag. Nat. Hist., 8, xii:396.
 Burmeister, H., (1842) Hand b. der Entom. III (Berlin) p. 199, 778.
 福田敏夫 (1935) 宇都宮付近昆虫雑報, 昆虫界 3 (22):558.
 蜂谷 剛 (1976) ふくしまの昆虫, ふくしま文庫 24:150 (福島中央テレビ)。

- Harold, E.v., (1876) Bericht über eine Sendung Coleoptera aus Hiogo,
Abhandl. Nat. Ver., Bremen, V:127.
- 蓮見重智 (1934a) 栃木県黒羽町附近のこがねむし科目録, 昆虫界 2(8):233.
- 蓮見重智 (1934b) 分布三件, 昆虫界 2(11):580.
- Heyden, L. v., (1879) Die Coleopterologische Aubeutedes Prof. Dr. Rein in Japan
1874-1875, Deut. Ent. Zeit., X X III, Heft. II:346.
- 樋田清砂 (1937) 三重県産金亀子科及び鍬形虫科目録, 昆虫界 5(35):56.
- 日高敏隆監修 (1982) 小学館の学習百科図鑑 (37) 甲虫のくらし, p. 27
(小学館・東京)
- 日置正秀 (1973) 茨城のコガネムシ, るりぼし (1):2-3.
- Hope, F. W., (1841) Description of some new Lamellicorn Coleoptera from Northern
India, Trans. Ent. Soc. London, II:64.
- 伊賀正汎 (1955) 原色日本昆虫図鑑 (2) 甲虫編, 増補改訂版,
Pl. 32, f. 696, 697, p. 107 (保育社・大阪)
- 稲泉三丸 (1972) 栃木県の甲虫の仲間, 栃木県の動物と植物, p. 465
(下野新聞社・宇都宮)
- 石田正明 (1973a) 伊豆・式根島のコガネムシ主科について,
月刊むし (32):32-40.
- 石田正明 (1973b) 伊豆・利島のコガネムシ主科について,
東京経済大学人文自然科学論集 63:133-157.
- 石田正明 (1984a) 伊豆・神津島のコガネムシ主科について,
東京経済大学人文自然科学論集 66:39-49.
- 石田正明 (1984b) 伊豆半島のコガネムシ主科について,
東京経済大学人文自然科学論集 68:43-60.
- 石田正明 (1985) 武蔵・国分寺周辺の鯰角群,
東京経済大学人文自然科学論集 71:91-109.
- 石田正明 (1986a) 東京杉並区のコガネムシ主科相の変遷,
東京経済大学人文自然科学論集 74:83-96.
- 石田正明 (1986b) 板橋区のコガネムシ上科, 板橋区昆虫類実態調査 93:58-60.
- 石田正明・青木 隆 (1985) カナブンとアオカナブン, SAIKAKU (1):1-2.
- 石田正明・藤岡昌介 (1988) 日本産コガネムシ主科目録 (第一版補訂版),
LAMELLICORNIA 別冊 2.

- 石田正明・伊藤敏仁 (1976) 伊豆・新島のコガネムシ主科について (II),
月刊むし (66): 7-12.
- 板垣輝彦 (1964) 山形県産甲虫類の分布資料, 山形昆虫同好会会誌 2(1): 6.
- 加藤正世 (1933) 分類原色日本昆虫図鑑第八輯, pl. 16, f. 1 (厚生閣・東京)
- 加藤正世 (1935a) アヲグロカナブン内地に産せず, 昆虫界 3(13): 104.
- 加藤正世 (1935b) 主要金亀子科の分類 (3), 昆虫界 3(17): 286.
- Kim, C. W., (1978) Distribution Atlas of Insects of Korea, Series 2. Coleoptera,
p. 381, pl. XXVII, sc52a.
- 小寺正文 (1933) アヲカナブン (*Rhomborrhina*) とカナブン (*Rhomborrhina*
japonica) に就いて, 関西昆虫雑誌 1(2): 3.
- 降旗剛寛 (1979) 長野県昆虫図鑑 (下), p. 126 (信濃毎日新聞社・長野)
- 小池 寛 (1982) 新潟県昆虫図譜 (下), p. 58 (新潟日報事業社・新潟)
- 小坂橋秀治 (1935) 北甘楽郡に於ける昆虫目録, 昆虫界 3(18・19): 382.
- 小倉健夫 (1988) 水戸市千波湖周辺の昆虫, るりぼし (12): 10.
- Kolbe, H. J., (1886) Beitrag zur Kenntnis der Coleoptera—Fauna Korea,
Arch. f. Naturg., 52: 139-240.
- 黒沢良彦 (1985) 原色日本甲虫図鑑 (II), pl. 72, f. 10, p. 410 (保育社・大阪)
- Lewis, G., (1887) On the Cetoniidae of Japan, with Notes of new Species,
Synonymy and Localities, Ann. Mag. Nat. Hist., XIX(5): 196-202.
- 松村松年 (1898) 日本昆虫学 (常華書房・東京)
- 松村松年 (1906) 日本千虫図解 第三卷, pl. 47, f. 5, p. 81 (警醒社)
- 松村松年 (1931) 日本通俗昆虫図説 第三卷 甲虫之部, pl. 28, f. 6, p. 120
(春陽堂・東京)
- Mikšić, R., (1967) Revision der Gattung *Rhomborrhina* Hope,
Ent. Arb. Mus. Tierk. Dresden, 35: 267-335.
- Mikšić, R., (1977) Monographie der Cetoniidae der Orientalischen und paläarktischen
Region, Band. 2: 261-264.
- 宮城県仙台第二高等学校生物部 (1987) 宮城県牡鹿町網島産昆虫目録.
- Motschulsky, V. I., (1860) Insects du Japan, Etnd. Ent. tome, 9: 4-39.
- 長島義介 (1978) 角田山の博物誌, (巻町双書 第26集)
- 中根猛彦 (1979) Leiden自然史博物館にある日本産甲虫標本,
北九州の昆虫 26(1): 1-2, pl. 1.

- 中根猛彦・馬場金太郎 (1960) 新潟県の金亀子虫類,
市立長岡科学博物館館報 (4): 8.
- 新島善直・木下栄次郎 (1923) こがねむしに関する研究報告 (第二). 我国ニ産
スルこがねむし及其分布, 北海道帝国大学農学部演習林研究
報告 Vol. 2, No. 2: 156-157, Taf. V, fig. 16.
- 野村 鎮 (1969) 伊豆諸島産コガネムシ主科の動物地理学的研究,
昆虫学評論 21(1): 71-94, pl. 8.
- 沼田 真・大野正男 (1985) 房総の生物, p. 223 (河出書房新社・東京)
- Okamoto, H., (1924) The Insect Fauna of Quelpart Island,
Bull. Agr. Exp. St. Gov. Gen. Chosen, Vol. 1, No. 2: 179.
- 酒井 香 (1993) 日本および台湾産のカナブン類, 月刊むし (273): 3-9.
- 桜井俊一 (1984) 山形県の甲虫類 (IV), 山形昆虫同好会会誌 (13): 19.
- Schenkling, S., (1921) W. Junk Coleopterorum Catalogu Pars. 72. Scarabaeidae :
Cetoninae : 63.
- 関 公一 (1933) 御影町附近産の甲虫目録 (其の一), 昆虫界 1(3): 252.
- 関 公一 (1934) 大阪・神戸附近の金亀子虫, 昆虫界 2(9): 310.
- 須田 享 (1985) 群馬県の甲虫類, 群馬県動物誌: 336.
- 竹内誠一 (1940) 岩手県甲虫誌 第一巻: 116 (自刊).
- 田中忠次 (1939) 黒部川流域産甲虫目録 (2), 昆虫界 7(64): 39.
- 戸田市立郷土博物館 (1989) 戸田市の昆虫 3. 甲虫類, 戸田市動物誌: 167.
- 上田恭一郎 (1970) シーボルトその標本と日本の昆虫学 1~3,
インセクタリウム Vol. 27, No. 1-3.
- 渡辺福寿 (1937) 森林動物相調査報告 第一輯 金亀子科, p. 79-80, pl. 20, f. 41
(青森営林局)
- 渡辺福寿 (1991) 日本樹木害虫総目録 (復刻版) p. 12 (有明書房・東京)
- 渡辺 徳 (1989) 宮城県の甲虫, p. 149 (日本鞘翅学会)
- Waterhouse, C. O., (1875) On the Lamellicorn Coleoptera of Japan,
Trans. ent. Soc. London, Part. 1: 113.
- 山路賀藤次 (1935) 宮城県加美郡色麻村産甲虫類, 昆虫界 3(15): 177.
- 山崎秀雄 (1985) 千葉県のコガネムシ主科, 千葉生物誌 35(1): 15.
- 柳田 勇 (1939) 函館近傍産鞘翅目に就いて, 昆虫界 7(67): 520.
- 吉越 肇 (1987) 仙台北西丘陵の甲虫相, 東北の自然 (34): 3-17.

但馬のカミキリムシ 1993

永幡嘉之

1993年に但馬で採集したカミキリムシ184種のデータを報告する。採集年は全て1993年、採集者は明記していないかぎり筆者である。和名、学名、配列は、『日本産カミキリムシ検索図説』（大林・佐藤・小島，1992）に従った。採集時に得られた生態上の知見を、佐藤（1987）の報告の形式にならない、わかる範囲で簡略に記した。なお、植物名のなかでカエデ類については、春にはコハウチワカエデとヒナウチワカエデ、ヤマモミジとオオモミジ、イロハモミジをそれぞれ細かく記録していなかったため、一括してカエデ類と記した。食入材の持ち帰りも行ったが、これについては羽化脱出した日を記録し、羽脱と記している。また、材の樹種が判明した場合のみ、「〇〇材」という表現を用いた。

1. ホソカミキリ *Distenia gracilis*
村岡町村岡（1 ex., 19-IX）カエデ類伐採枝下面
2. ベーツヒラタカミキリ *Eurypoda batesi*
浜坂町栃谷（2 exs., 21-VII）スダジイ老木
3. ウスバカミキリ *Megopis sinica*
浜坂町本谷（1 ex., 21-VII）村岡町本谷奥（1 ex., 5-VIII）
（1 ex., 19-VIII）美方町小代溪谷（4 exs., 20-VII）
ブナ・サワグルミ生木，幹上，洞内
4. ノコギリカミキリ *Prionus insularis*
浜坂町城山（1 ex., 12-VII）居組（1 ex., 3-VIII）
大屋町横行（1 ex., 21-VII）樹幹上，灯火
5. ニセノコギリカミキリ *P. sejunctus*
浜坂町観音山（2 exs., 21-VII）居組（1 ex., 21-VII）
アカマツ立枯（夜間），灯火
6. コバネカミキリ *Psephactus remiger*
温泉町扇ノ山小ツッコ（1 ex., 17-VII）大屋町横行（1 ex., 21-VII）
ブナ立枯樹皮下，飛翔中

7. クロカミキリ *Spondylis buprestoides*
村岡町本谷奥 (1 ex., 4-VIII) 長板 (9 exs., 21-VIII) アカマツ伐採木
8. ケブカヒラタカミキリ *Nothorhina punctata*
浜坂町観音山 (死骸 1 ex., 21-X) 村岡町祖岡 (1 ex., 10-IX)
アカマツ生木樹皮下
9. サビカミキリ *Arhopalus coreanus*
村岡町長板 (2 exs., 21-VIII) アカマツ伐採木
10. ムナコブハナカミキリ *Xenophyrama purpureum*
村岡町大笹鉢北 (2 exs., 5-VII) サワグルミ付近の草上
11. フタコブルリハナカミキリ *Stenocorus caeruleipennis*
村岡町大笹鉢北 (1 ex., 5-VII)
12. モモグロハナカミキリ *Toxotinus reini*
浜坂町城山 (7 exs., 27-V) (27 exs., 28-V) (3 exs., 30-V)
(3 exs., 31-V) (2 exs., 6-VI) 村岡町小城 (14 exs., 12-VI)
(1 ex., 16-VI) 草上
13. フタスジカタビロハナカミキリ *Brachyta bifasciata*
村岡町小城 (7 exs., 15-V) ヤマシャクヤク花
14. カラカネハナカミキリ *Gaurotes doris*
村岡町小城 (1 ex., 16-VI) 広葉樹伐採木
15. キバネニセハムシハナカミキリ *Lemula decipiens*
浜坂町観音山 (1 ex., 5-V) 温泉町後山 (1 ex., 5-V) 村岡町村岡
(1 ex., 4-V) 村岡町小城 (1 ex., 4-V) (2 exs., 8-V)
カエデ類花
16. ピックニセハムシハナカミキリ *L. rufithorax*
浜坂町藤尾 (1 ex., 5-V) 村岡町小城 (1 ex., 6-V)
(3 exs., 8-V) ウワミズザクラ・カエデ類花
17. アカイロニセハムシハナカミキリ *L. nishimurai*
村岡町小城 (7 exs., 4-V) (4 exs., 8-V) 関宮町福定
(1 ex., 31-V) カエデ類花, 葉上
18. ヒナルリハナカミキリ *Dinoptera minuta*
浜坂町城山 (1 ex., 9-V) 村岡町兎和野 (4 exs., 4-V) 小城

- (14exs., 4-V) (1 ex., 6-V) (3 exs., 8-V) (1 ex., 15-V)
美方町備 (1 ex., 30-V) カエデ類・ナシ・ナナカマド・ハナイカダ花
19. シコクヒメコブハナカミキリ *Pseudosieversia shikokensis*
美方町小代溪谷 (3 exs., 21-VI) カツラ大木周辺
20. マツシタヒメハナカミキリ *Pidonia matsushitai*
関宮町氷ノ山大平頭 (1 ex., 27-VI) サワフタギ花
21. ナガバヒメハナカミキリ *P. signifera*
浜坂町池ヶ平 (9 exs., 23-V) 村岡町小城 (3 exs., 30-V)
(1 ex., 12-VI) 美方町備 (1 ex., 30-V) 関宮町福定 (1 ex., 31-V)
氷ノ山大平頭 (3 exs., 27-VI) タニウツギ・イワガラミ・サワフタギ花
22. キベリクロヒメハナカミキリ *P. discoidalis*
村岡町小城 (1 ex., 12-VI) イワガラミ花
23. オオヒメハナカミキリ *P. grallatrix*
村岡町小城 (5 exs., 12-VI) (5 exs., 20-VI) 関宮町氷ノ山大平頭
(2 exs., 27-VI) イワガラミ・ゴトウヅル花
24. チャイロヒメハナカミキリ *P. aegrota*
浜坂町観音山 (45exs., 11-V) (77exs., 12-V) (1 ex., 16-V)
(3 exs., 25-V) 居組 (1 ex., 6-VI) 温泉町霧ヶ滝 (1 ex., 29-V)
村岡町小城 (7 exs., 30-V) (4 exs., 12-VI) ガマズミ・ミヤマガマズ
ミ・コバノガマズミ・コマユミ・カマツカ・スダジイ・サワフタギ・ヤブデ
マリ・イワガラミ花, スダジイ倒木に産卵
25. フタオビヒメハナカミキリ *P. puziloi*
浜坂町池ヶ平 (10exs., 23-V) 村岡町小城 (5 exs., 15-V)
(3 exs., 30-V) (1 ex., 12-VI) 関宮町福定 (1 ex., 31-V) 氷ノ山
大平頭 (3 exs., 27-VI) タニウツギ・サワフタギ・ミヤマガマズミ花
26. ミワヒメハナカミキリ *P. miwai*
浜坂町池ヶ平 (2 exs., 23-V) 村岡町小城 (2 exs., 15-V) (3 exs.,
30-V) 関宮町福定 (1 ex., 31-V) 氷ノ山大平頭 (3 exs., 27-VI)
サワフタギ・タニウツギ花
27. セスジヒメハナカミキリ *P. amentata*
浜坂町池ヶ平 (1 ex., 23-V) 村岡町小城 (5 exs., 4-V) (2 exs.,

- 6-V) (1 ex., 8-V) (2 exs., 15-V) 美方町備 (5 exs., 30-V)
 関宮町福定 (4 exs., 31-V) カエデ類・タニウツギ・ミヤマガマズミ花
28. シラユキヒメハナカミキリ *P. dealbata*
 村岡町小城 (2 exs., 12-VI) 関宮町氷ノ山大平頭 (1 ex., 27-VI)
 イワガラミ・サワフタギ花
29. ミヤマクロハナカミキリ *Anoploderomorpha excavata*
 関宮町福定 (1 ex., 7-VII) 鉢高原 (1 ex., 31-VII) ノリウツギ花・飛翔中
30. キヌツヤハナカミキリ *Corennys sericata*
 村岡町小城 (1 ex., 4-VII) (6 exs., 6-VII)
 ショウマ類・イワガラミ花, 飛翔中
31. ヤマトキモンハナカミキリ *Judoria japonica*
 村岡町小城 (1 ex., 4-VII) クリ花
32. マルガタハナカミキリ *Pachytodes cometes*
 温泉町霧ヶ滝 (1 ex., 31-VII) 関宮町福定 (3 exs., 26-VII)
 (3 exs., 29-VII) (4 exs., 31-VII) 大久保 (1 ex., 26-VII)
 鉢高原 (10 exs., 31-VII) ノリウツギ・リョウブ花
33. ヒメアカハナカミキリ *Brachyleptura pyrha*
 関宮町大久保 (1 ex., 26-VII) ノリウツギ花
34. ツヤケシハナカミキリ *Anastrangalia scotodes*
 浜坂町城山 (1 ex., 27-V) (1 ex., 9-VI) 居組 (4 exs., 6-VI)
 観音山 (8 exs., 11-V) (10 exs., 12-V) (1 ex., 25-V)
 (2 exs., 1-VI) ナナカマド・ウラジロノキ・スダジイ・ガマズミ花
35. アカハナカミキリ *Corymbia susedanea*
 浜坂町観音山 (2 exs., 23-VII) (2 exs., 1-VIII) 本谷 (1 ex., 6-VIII)
 村岡町和佐父 (1 ex., 26-VII) リョウブ花, 飛翔中
36. オオハナカミキリ *Konoa granurata*
 浜坂町観音山 (1 ex., 28-V) (2 exs., 11-VII)
 アカマツ倒木, リョウブ花
37. ベニバハナカミキリ *Paranaspia anaspidoidea*
 関宮町福定 (4 exs., 7-VII) (2 exs., 9-VII) トチノキ洞, 周辺の葉裏
38. ムネアカクロハナカミキリ *Leptura dimorpha*

浜坂町浜坂 (1 ex., 7-VI) 村岡町小城 (2 exs., 20-VI)
(1 ex., 4-VII) 大笹鉢北 (4 exs., 5-VII) 美方町備 (2 exs., 30-V)
クリ・ナナカマド花, 飛翔中

39. ツマグロハナカミキリ *L. modicenotata*

浜坂町観音山 (1 ex., 12-V) (1 ex., 25-V) (4 exs., 28-V)
(1 ex., 1-VI) 居組 (2 exs., 6-VI) 温泉町丹土 (1 ex., 25-V)
村岡町大笹鉢北 (1 ex., 5-VII)
ナナカマド・ガマズミ・スダジイ・クリ・ノイバラ花, スダジイ倒木

40. ヨツスジハナカミキリ *L. ochraceofasciata*

浜坂町城山 (1 ex., 1-VII) (1 ex., 16-VII) 居組 (1 ex., 16-VII) 観音山
(1 ex., 1-VII) (3 exs., 11-VII) (2 exs., 16-VII) (1 ex., 23-VII)
本谷 (2 exs., 6-VIII) 温泉町湯谷 (1 ex., 26-VII) (1 ex., 27-VII) 檜尾
(3 exs., 25-VII) 越坂 (1 ex., 7-VII) 蒲生峠 (1 ex., 26-VII) (1 ex.,
27-VII) 村岡町小城 (1 ex., 4-VII) (6 exs., 22-VII) (2 exs., 19-VIII)
本谷奥 (3 exs., 5-VIII) 和佐父 (1 ex., 22-VII) (1 ex., 23-VII)
(1 ex., 26-VII) 関宮町福定 (6 exs., 26-VII) (4 exs., 29-VII)
(1 ex., 31-VII) 鉢高原 (4 exs., 26-VII) (12 exs., 31-VII) 大久保
(1 ex., 26-VII) 大屋町横行 (4 exs., 21-VIII)

リョウブ・イワガラミ・ヌルデ・シナノキ・ノリウツギ花, モミ倒木周辺

41. ハネビロハナカミキリ *L. latipennis*

浜坂町観音山 (3 exs., 25-V) スダジイ花, スダジイ倒木

42. フタスジハナカミキリ *Nakanea vicaria*

関宮町鉢高原 (1 ex., 31-VII) ノリウツギ花

43. オオヨツスジハナカミキリ *Macroleptura regalis*

浜坂町城山 (1 ex., 24-VII) 観音山 (2 exs., 1-VIII)
村岡町和田 (3 exs., 18-VIII) 川会 (1 ex., 16-VIII)
リョウブ・ヌルデ・カラスザンショウ花

44. カエデノヘリグロハナカミキリ *Eustrangalia distenioides*

村岡町小城 (1 ex., 4-V)

45. ヒゲジロハナカミキリ *Japanostrangalia dentatipennis*

関宮町福定 (2 exs., 26-VII) (1 ex., 31-VII) 鉢高原 (4 exs., 31-VII)

ノリウツギ花

46. アオバホソハナカミキリ *Strangalomorpha tenuis*
 温泉町霧ヶ滝 (1 ex., 29-V) 村岡町小城 (2 exs., 30-V)
 (1 ex., 16-VI) 関宮町福定 (1 ex., 20-VI)
 サワフタギ・ヤブデマリ・ヤマボウシ花
47. タテジマハナカミキリ *Parastrangalis shikokensis*
 村岡町小城 (1 ex., 22-VII) シナノキ花
48. ニンフハナカミキリ *P. nymphula*
 村岡町小城 (1 ex., 16-VI) (1 ex., 20-VI) (1 ex., 4-VII) 大笹鉢北
 (1 ex., 9-VII) 美方町備 (1 ex., 30-V) 関宮町福定 (22 exs., 26-VII)
 (5 exs., 29-VII) (1 ex., 31-VII) 鉢高原 (1 ex., 26-VII) (1 ex., 31-VII)
 ヤマボウシ・クリ・ナナカマド・ノリウツギ花
49. ミヤマホソハナカミキリ *Idiostrangalia contracta*
 村岡町小城 (1 ex., 6-VII) (1 ex., 22-VII) 関宮町福定 (6 exs., 26-VII)
 鉢高原 (1 ex., 26-VII) (5 exs., 31-VII) 大屋町横行 (1 ex., 21-VII)
 シナノキ・クマノミズキ・ノリウツギ・ショウマ類・シシウド花
50. ハコネホソハナカミキリ *I. hakonensis*
 関宮町福定 (1 ex., 26-VII) ノリウツギ花
51. ミヤマカミキリ *Massicus raddei*
 浜坂町諸寄 (8 exs., 28-VII) (10 exs., 29-VII) (6 exs., 1-VIII)
 (2 exs., 4-VIII) 諸寄奥町 (3 exs., 29-VII) 戸田 (2 exs., 29-VII)
 芦屋 (1 ex., 29-VII) 若松町 (2 exs., 29-VII) 居組 (2 exs., 29-VII)
 久谷 (1 ex., 28-VII) 二日市 (13 exs., 29-VII) (2 exs., 1-VIII)
 温泉町湯 (1 ex., 28-VII) (20 exs., 29-VII) (3 exs., 4-VIII)
 歌長 (5 exs., 29-VII) 灯火, 翌朝カラスなど鳥に捕食される。
52. キマダラミヤマカミキリ *Aeolesthes chrysothrix*
 浜坂町諸寄 (1 ex., 28-VII) 本谷 (1 ex., 25-VI) ミズナラ立枯, 灯火
53. アオスジカミキリ *Xystrocera globosa*
 浜坂町城山 (1 ex., 17-VI) 和田 (1 ex., 12-VII) 諸寄 (2 exs., 29-VII)
 (1 ex., 1-VIII) 諸寄奥町 (1 ex., 4-VIII) 村岡町本谷奥 (1 ex., 8-VII)
 (2 exs., 10-VII) 関宮町奈良尾 (1 ex., 9-VII) ネムノキ伐採木, 灯火

54. ベーツヤサカミキリ *Leptoxenus ibidiiformis*
本誌前号 (No. 17) で報告済なので、産地と追加記録のみを挙げる。
<報告済産地> 浜坂町居組, 釜屋, 諸寄, 城山, 芦屋, 観音山, 清富, 田井赤崎, 三尾, 新市, 二日市, 栃谷
<追加記録> 浜坂町城山 (1 ex., 11-V) (1 ex., 27-V) (1 ex., 1-VI) (1 ex., 11-VI) 居組 (40 exs., 17~24-IV 羽脱) 観音山 (2 exs., 12-V) (1 ex., 28-V) (4 exs., 11-X) 諸寄 (1 ex., 11-VI) 温泉町今岡 (5 exs., 30-III)
ナナカマド・ウラジロノキ・ガマズミ・クリ花, タブノキ枯枝・材
日中, ウラジロノキ, センノキなどの葉裏に静止している個体が複数おり, 極めて不活発で揺すってもなかなか落下しない。夜間 (20時頃) タブノキ枯枝上で活動する成虫を2頭観察している (1-VI, 観音山)。
55. トビイロカミキリ *Allotraeus sphaerioninus*
浜坂町城山 (30 exs., 7~28-IV 羽脱) (1 ex., 31-V) (1 ex., 11-VI) (2 exs., 17-VI) 観音山 (1 ex., 25-V) (2 exs., 28-V) (8 exs., 1-VI) (3 exs., 7-VI) 田井 (3 exs., 24-VI) 居組 (100 exs., 28-IV~9-V 羽脱) (1 ex., 17-VI) 二日市 (12 exs., 23~29-IV 羽脱) 新市 (12 exs., 28-IV~1-V 羽脱) 村岡町小城 (1 ex., 4-V) 大笹鉢北 (1 ex., 7-VII)
カエデ類・クリ花, タブノキ・ヤブニッケイ枯枝・材
56. アメイロカミキリ *Stenodryas clavigera*
浜坂町城山 (1 ex., 1-VI) (1 ex., 9-VI) (4 exs., 17-VI)
新市 (1 ex., 2-V 羽脱) 村岡町小城 (1 ex., 4-VII) ガマズミ・クリ花
57. ヨコヤマヒメカミキリ *Ceresium holophaeum*
浜坂町居組 (2 exs., 4~6-VI 羽脱) タブノキ材
58. カッコウメダカカミキリ *Stenhomalus cleroides*
浜坂町城山 (1 ex., 11-VI) クリ花
59. タイワンメダカカミキリ *S. taiwanus*
浜坂町城山 (6 exs., 21~26-V 羽脱) カラスザンショウ材
60. トワダムモンメダカカミキリ *S. lighti*
浜坂町城山 (1 ex., 1-I) (9 exs., 27-III) (1 ex., 1-VI)

- (7 exs., 12~18-IV 羽脱) 清富 (4 exs., 2-I)
 村岡町大笹 (2 exs., 16-I) キブシ材・材中割出
61. ナカネアメイロカミキリ *Obrium nakanei*
 浜坂町本谷 (2 exs., 25-VI) 村岡町小城 (20exs., 12-VI)
 (15exs., 16-VI) センノキ樹幹・葉裏
62. スネケブカヒロコバナカミキリ *Merionoeda hirsuta*
 温泉町蒲生峠 (7 exs., 25-VII) (5 exs., 26-VII) (7 exs., 27-VII)
 越坂 (3 exs., 7-VIII) 春來 (1 ex., 16-VIII) 村岡町柵岡 (5 exs., 7-VIII)
 (2 exs., 9-VIII) (2 exs., 20-VIII) 川会 (22exs., 9-VIII) 和佐父
 (2 exs., 4-VIII)
 リョウブ・アカメガシワ・センノキ・カラスザンショウ花
63. ホソツヤヒゲナガコバナカミキリ *Glaphyra nitida*
 温泉町肥前畑 (1 ex., 4-V 羽脱) 村岡町村岡 (1 ex., 4-V)
 小城 (1 ex., 4-V) カエデ類花, エゾエノキ材
64. コジマヒゲナガコバナカミキリ *G. kojimai*
 浜坂町城山 (23exs., 4~19-IV 羽脱) 観音山 (1 ex., 5-V)
 (2 exs., 12-V) カエデ類・ナナカマド花, クマノミズキ材
65. ホタルカミキリ *Dere thoracica*
 浜坂町城山 (1 ex., 11-I) (18exs., 10~20-IV 羽脱) (2 exs., 9-V)
 (5 exs., 11-V) (2 exs., 16-V) (6 exs., 9-VI) (1 ex., 11-VI)
 (2 exs., 17-VI) 観音山 (4 exs., 12-V) 和田 (5 exs., 22-VI)
 (1 ex., 12-VII) 居組 (1 ex., 11-II) (1 ex., 6-VI) (2 exs., 11-VII)
 久斗山 (6 exs., 5-V) (6 exs., 23-V) (8 exs., 25-VI)
 本谷 (4 exs., 25-VI) 藤尾 (5 exs., 5-V) 諸寄 (1 ex., 11-VI)
 温泉町後山 (6 exs., 5-V) 熊谷大熊 (1 ex., 5-V) 蒲生峠
 (1 ex., 26-VII) 村岡町本谷奥 (2 exs., 6-VII) (2 exs., 10-VII)
 ナナカマド・ウワミズザクラ・クリ・リョウブ花, コナラ・ネムノキ材
66. クスベニカミキリ *Pyrestes nipponicum*
 浜坂町城山 (1 ex., 11-VII) (3 exs., 24-VII) 観音山 (1 ex., 23-VII)
 温泉町蒲生峠 (2 exs., 25-VII) (5 exs., 26-VII) (2 exs., 27-VII)
 (1 ex., 16-VIII) 飯野 (1 ex., 29-VII) 檜尾 (2 exs., 25-VII) 越坂

(2 exs., 26-VII) (1 ex., 27-VII) (2 exs., 29-VII) (1 ex., 7-VII)

湯谷 (1 ex., 26-VII) (1 ex., 27-VII) 村岡町粗岡 (2 exs., 27-VII)

本谷奥 (2 exs., 5-VIII) 関宮町福定 (1 ex., 26-VII) アカメ

ガシワ・リョウブ・ノリウツギ・カラスザンショウ・センノキ・ヌルデ花

67. ルリボシカミキリ *Rosalia batesi*

村岡町本谷奥 (1 ex., 5-VIII) (1 ex., 7-VIII) 小城 (1 ex., 22-VII)

関宮町福定 (5 exs., 29-VII) (7 exs., 31-VII)

ブナ・トチノキ伐採木, 葉上, リョウブ花

68. オオアオカミキリ *Chloridolum thaliodes*

美方町小代溪谷 (9 exs., 18-VIII) (11 exs., 20-VIII) (6 exs., 22-VIII)

(1 ex., 26-VIII) サワグルミ老衰木

69. ミドリカミキリ *C. viride*

浜坂町城山 (1 ex., 11-V) (1 ex., 27-V) (2 exs., 28-V)

(2 exs., 30-V) (1 ex., 31-V) (3 exs., 1-VI) (5 exs., 6-VI)

(8 exs., 7-VI) (2 exs., 9-VI) (3 exs., 11-VI) (1 ex.,

17-VI) 諸寄 (1 ex., 9-VI) 観音山 (2 exs., 11-V) (14 exs., 12-V)

(6 exs., 25-V) (9 exs., 28-V) (5 exs., 1-VI) (8 exs.,

7-VI) 居組 (3 exs., 6-VI) (1 ex., 17-VI) 関宮町福定 (1 ex., 26-VII)

ウラジロノキ・コバノガマズミ・ガマズミ・ナナカマド・スダジイ・

クリ花, スダジイ・カシワ・コナラ伐採木・枯れ枝, 草上

70. アオカミキリ *Schwarzerium quadricollis*

関宮町福定 (1 ex., 26-VII) 鉢高原 (1 ex., 26-VII)

ノリウツギ・リョウブ花

71. ベニカミキリ *Purpuricenus teminckii*

浜坂町城山 (1 ex., 11-V) (1 ex., 6-VI) 清富 (1 ex., 25-V)

観音山 (1 ex., 9-VI) 温泉町後山 (1 ex., 9-VII) 村岡町小城

(1 ex., 12-VI) ナナカマド・ガマズミ・スダジイ花, マダケ伐採竹

72. ヒメスギカミキリ *Callidiellum rufipenne*

温泉町牛が峰山 (1 ex., 20-IV) 村岡町本谷奥 (1 ex., 23-IV)

山頂吹き上げ, ブナ新芽

73. スギカミキリ *Semanotus japonicus*

- 浜坂町居組 (6 exs., 16-IV) (6 exs., 17-IV) スギ生木樹皮下
74. アカネカミキリ *Phymatodes maacki*
浜坂町観音山 (1 ex., 12-V) ナナカマド花
75. トラフカミキリ *Xylotrechus chinensis*
温泉町青下 (1 ex., 24-VII) クワ葉裏
76. クビアカトラカミキリ *X. rufilius*
浜坂町和田 (1 ex., 24-VI) 村岡町小城 (1 ex., 16-VI)
コナラ伐採木, ケンポナシ枯枝
77. ニイジマトラカミキリ *X. emaciatus*
温泉町花口 (2 exs., 4~8-V 羽脱) 海上 (1 ex., 29-VII) 村岡町本谷
奥 (2 exs., 23-VII) (2 exs., 29-VII) 大屋町横行 (2 exs., 21-VII)
広葉樹枯枝
78. ブドウトラカミキリ *X. pyrrhoderus*
村岡町本谷奥 (1 ex., 11-IX) (死骸 1 ex., 27-X 材中) ヤマブドウ生葉
79. ウスイロトラカミキリ *X. cuneipennis*
浜坂町観音山 (1 ex., 18-VI) 和田 (1 ex., 12-VII) 本谷 (1 ex., 25-VI)
(1 ex., 20-VIII) 温泉町後山 (1 ex., 25-VII 羽脱) 檜尾 (1 ex., 6-VIII)
越坂 (3 exs., 29-VII) 扇ノ山畑ヶ平 (1 ex., 15-IX) 村岡町本谷奥
(1 ex., 6-VII) (1 ex., 29-VII) (2 exs., 7-VIII) (1 ex., 11-IX)
長板 (1 ex., 21-VIII) ブナ・コシアブラ・イヌシデ・センノキ伐採木・倒木
80. ズマルトラカミキリ *X. lautus*
浜坂町城山 (1 ex., 3-III) (1 ex., 1-VI) 諸寄 (1 ex., 14-I) 居組
(6 exs., 11-II) (6 exs., 13~18-IV 羽脱) 田井 (2 exs., 9-I)
三尾 (2 exs., 8-I) (2 exs., 9-I) 観音山 (6 exs., 27-II)
(1 ex., 12-V) (1 ex., 28-V) 新市 (2 exs., 14-I) 清富 (3 exs.,
2-I) ガマズミ・コバノガマズミ・スタジイ花, タブノキ・ヤブニッケ
イ・ケヤキ・マルバグミ材中
81. アカネキスジトラカミキリ *Cyrtoclytus monticallius*
本誌前号及び本号で報告しているので, 産地の列挙にとどめておく。
浜坂町久斗山, 温泉町熊谷大熊, 内山, 越坂, 千谷, 海上, 花口, 肥前畑,
村岡町小城, 兎和野, 板仕野, 長板, 美方町神場, 実山, 大谷, 備, 茅野,

新屋

82. キスジトラカミキリ *C. caproides*
 温泉町花口 (2 exs., 10~30-V 羽脱) 村岡町大笹鉢北 (1 ex., 9-VII)
 関宮町福定 (1 ex., 26-VII) (1 ex., 29-VII) ノリウツギ・クリ花
83. シラケトラカミキリ *Clytus melaenus*
 浜坂町城山 (1 ex., 3-V 羽脱) (4 exs., 1-VI) (2 exs., 7-VI)
 (1 ex., 17-VI) 観音山 (2 exs., 11-V) (1 ex., 12-V) (1 ex., 25-V)
 (2 exs., 28-V) (1 ex., 9-VI) 温泉町後山 (1 ex., 3-V 羽脱)
 内山 (1 ex., 28-IV 羽脱)
 カシワ・コナラ・スダジイ伐採木, ナナカマド花
84. キンケトラカミキリ *C. auripilis*
 浜坂町城山 (1 ex., 15-II) (29exs., 26-II) (3 exs., 3-III)
 (15exs., 4-III) (1 ex., 10-III) 清富 (3 exs., 27-II) 観音山
 (6 exs., 2-I) (17exs., 26-II) (5 exs., 27-II) 温泉町肥前畑
 (1 ex., 7-IV 羽脱) 千谷 (7 exs., 1-V) 越坂 (3 exs., 29-III)
 青下 (5 exs., 13-III) 海上 (11exs., 14-III) 宮脇 (8 exs., 29-III)
 前 (1 ex., 14-III) 花口 (12exs., 9-III) (6 exs., 13-III) (17exs.,
 6~21-IV 羽脱) 今岡 (5 exs., 30-III) 村岡町小城 (8 exs., 3-V)
 日影 (2 exs., 21-III) 兎和野 (7 exs., 14-I) 美方町茅野 (5 exs.,
 30-IV) ケヤキ・エゾエノキ・エノキ材中
85. エグリトラカミキリ *Chlorophorus japonicus*
 浜坂町城山 (3 exs., 11-V 羽脱) 観音山 (2 exs., 25-V) (1 ex.,
 1-VI) 久斗山 (1 ex., 25-VI) 温泉町後山 (1 ex., 18-VI) 蒲生峠
 (1 ex., 27-VII) 花口 (17exs., 7~14-V 羽脱) 村岡町和佐父 (1 ex.,
 7-VIII) 本谷奥 (1 ex., 7-VIII) 関宮町福定 (2 exs., 26-VII) (1 ex.,
 29-VII) 鉢高原 (3 exs., 26-VII)
 スダジイ・コシアブラ・コナラ伐採木・枯枝, ノリウツギ・リョウブ花
86. フタオビミドリトラカミキリ *C. muscosus*
 浜坂町城山 (31exs., 10~30-VI 羽脱) (1 ex., 24-VII) (2 exs., 28-VII)
 本谷 (2 exs., 30-VII) 居組 (1 ex., 11-VII) 温泉町檜尾 (1 ex., 25-VII)
 村岡町小城 (1 ex., 19-VIII)

アカメガシワ・リョウブ・イタドリ花, コナラ材

87. トウキョウトラカミキリ *C. yedoensis*
 浜坂町観音山 (1 ex., 11-V) 温泉町後山 (1 ex., 28-IV 羽脱) (1 ex., 15-X 羽脱) コバノガマズミ花, コナラ材
88. ホソトラカミキリ *Rhaphuma xenisca*
 村岡町本谷奥 (3 exs., 7-VIII) 関宮町福定 (2 exs., 26-VII)
 ノリウツギ花, コシアブラ伐採木
89. ヒメクロトラカミキリ *R. diminuta*
 浜坂町城山 (1 ex., 13-II) (2 exs., 4-III) (3 exs., 10-III)
 (3 exs., 4-IV~4-V 羽脱) (6 exs., 9-V) (3 exs., 16-V)
 (1 ex., 1-VI) (1 ex., 7-VI) (1 ex., 11-VI) (4 exs., 17-VI)
 観音山 (2 exs., 5-V) (3 exs., 12-V) 池ヶ平 (1 ex., 23-V)
 村岡町小城 (2 exs., 4-V) 本谷奥 (1 ex., 6-VII)
 カエデ類・ナナカマド・アズキナシ・ニガキ・クリ花, ケヤキ・キブシ材
90. キイロトラカミキリ *Grammographus notabilis*
 浜坂町城山 (1 ex., 11-V) (1 ex., 1-VI) (3 exs., 9-VI)
 (3 exs., 11-VI) (10 exs., 17-VI) 観音山 (1 ex., 18-VI)
 温泉町内山 (4 exs., 4~13-V 羽脱) 村岡町小城 (1 ex., 16-VI)
 カラスザンショウ伐木, ケンポナシ枯枝, ナナカマド花, ケヤキ枯枝
91. トゲヒゲトラカミキリ *Demonax transilis*
 浜坂町城山 (2 exs., 9-V) (1 ex., 17-VI) 観音山 (3 exs., 5-V)
 (3 exs., 11-V) (7 exs., 12-V) 諸寄 (1 ex., 11-VI) 藤尾
 (6 exs., 5-V) 池ヶ平 (9 exs., 23-V) 温泉町丹土 (25 exs., 25-V)
 蒲生峠 (1 ex., 26-VII) 村岡町村岡 (1 ex., 4-V) 小城 (2 exs., 4-V)
 (6 exs., 12-VI) (3 exs., 4-VII) 関宮町福定 (4 exs., 26-VII) 鉢高原 (2 exs., 31-VII)
 タンゴイワガサ・コバノガマズミ・クリ・ガマズミ・ウワミズザクラ・カエデ類・ニガキ・ナナカマド・マユミ・イワガラミ・ノリウツギ花, キブシ材
92. シロトラカミキリ *Paraclytus excultus*
 村岡町小城 (3 exs., 4-V) 関宮町氷ノ山大平頭 (1 ex., 27-VI)
 カエデ類・ミズキ花

93. スギノアカネトラカミキリ *Anaglyptus subfasciatus*
 浜坂町観音山 (1 ex., 11-V) (3 exs., 12-V)
 温泉町丹土 (7 exs., 25-V) 美方町小代溪谷 (1 ex., 5-VII)
 ナナカマド・マユミ花, オニグルミ伐木
94. トガリバアカネトラカミキリ *A. nipponensis*
 温泉町青下 (2 exs., 13-III) 霧ヶ滝 (1 ex., 29-V)
 サワフタギ花, エゾエノキ材中
95. マツシタトラカミキリ *A. matsushitai*
 浜坂町観音山 (1 ex., 5-V) (6 exs., 11-V) (7 exs., 12-V)
 池ヶ平 (1 ex., 23-V) 関宮町鉢高原 (1 ex., 31-VII)
 ナナカマド・コバノガマズミ・コマユミ・カエデ類・ノリウツギ花
96. シロオビゴマフカミキリ *Falsomesosella gracilior*
 浜坂町城山 (7 exs., 30-IV~14-V 羽脱) (1 ex., 11-V) (1 ex.,
 28-V) (1 ex., 11-VI) (1 ex., 17-VI) 温泉町蒲生峠 (1 ex., 16-VI)
 霧ヶ滝 (20 exs., 1~7-V 羽脱) 村岡町作山 (1 ex., 5-VII) 美方町
 新屋 (1 ex., 21-VII) ネムノキ枯枝・材, エゾエノキ材, 葉上
97. ヨツボシシロオビゴマフカミキリ *Mesosa mediofasciata*
 浜坂町観音山 (4 exs., 10-X) (3 exs., 16-X) モミ倒木
98. ゴマフカミキリ *M. japonica*
 浜坂町城山 (1 ex., 16-V) (1 ex., 28-V) (1 ex., 1-VI) 村岡町長板
 (1 ex., 20-VII) 和佐父 (2 exs., 19-VII) 本谷奥 (1 ex., 9-X)
 (1 ex., 19-X) (1 ex., 27-X) フジ・オニグルミ・ブナ枯枝
99. カタシロゴマフカミキリ *M. hirsuta*
 温泉町花口 (1 ex., 6-VI 羽脱) 長板 (1 ex., 19-VII) 本谷奥 (1 ex.,
 5-VII) 広葉樹枯枝
100. ナガゴマフカミキリ *M. longipennis*
 浜坂町城山 (3 exs., 6~15-VI 羽脱) (1 ex., 16-VII) 観音山 (1 ex.,
 1-VII) (1 ex., 11-VII) (2 exs., 23-VII) 和田 (1 ex., 12-VII) 本谷
 (1 ex., 25-VI) 温泉町後山 (死骸 1 ex., 5-V) (1 ex., 10-VII 羽脱)
 海上 (1 ex., 29-VII) 花口 (1 ex., 2-VI 羽脱) 村岡町村岡 (1 ex., 18-
 VII) (1 ex., 19-IX) (1 ex., 11-X) 作山 (1 ex., 5-VII) 本谷奥

(1 ex., 6-VII) (2 exs., 19-VII) (1 ex., 11-IX) 関宮町福定
 (4 exs., 9-VII) (1 ex., 18-VIII) 奈良尾 (1 ex., 9-VII) (1 ex., 26-VII) ヌルデ・イチジク・センノキ・ケヤキ・クワなどの枯枝

101. タテスジゴマフカミキリ *M. senilis*

浜坂町城山 (1 ex., 13-IX 羽脱) 温泉町霧ヶ滝 (3 exs., 8~27-VII 羽脱) 村岡町本谷奥 (1 ex., 4-VII) (1 ex., 10-VII) (2 exs., 19-IX) (3 exs., 9-X) (3 exs., 19-X) ブナ・カエデ類・コシアブラ枯枝

102. キクスイモドキカミキリ *Asaperda rufipes*

浜坂町城山 (1 ex., 16-IV 羽脱) (1 ex., 1-VI) (1 ex., 6-VI) 居組 (1 ex., 6-VI) 観音山 (1 ex., 12-V) (1 ex., 28-V) (6 exs., 1-VI) (1 ex., 7-VI) 村岡町大笹鉢北 (1 ex., 14-VI) 本谷奥 (1 ex., 4-VII) (7 exs., 6-VII) (5 exs., 7-VII) (5 exs., 8-VII) (8 exs., 10-VII) (3 exs., 19-VII) (1 ex., 22-VII) (2 exs., 23-VII) 関宮町福定 (1 ex., 14-VI) タブノキ・ブナなどの枯枝

103. コブスジサビカミキリ *Atimura japonica*

浜坂町和田 (1 ex., 12-VII) (2 exs., 23-VII) 村岡町本谷奥 (1 ex., 19-IX) ノグルミ枯枝

104. クビジロカミキリ *Xylariopsis mimica*

村岡町本谷奥 (1 ex., 8-VII) 大屋町横行 (1 ex., 21-VIII) ツルウメモドキ枯蔓

105. ヒトオビチビカミキリ *Sybra unifasciata*

村岡町本谷奥 (1 ex., 6-VII) 広葉樹枯枝

106. シロオビチビカミキリ *S. subfasciata*

温泉町檜尾 (4 exs., 25-VII) 海上 (1 ex., 29-VII) 肥前畑 (6 exs., 10~28-VI 羽脱) 霧ヶ滝 (178 exs., 9-V~30-VI 羽脱) 村岡町小城 (1 ex., 4-VII) 作山 (1 ex., 5-VII) 本谷奥 (10 exs., 6-VII) (1 ex., 7-VII) (1 ex., 8-VII) (9 exs., 10-VII) (13 exs., 19-VII) (1 ex., 22-VII) (3 exs., 23-VII) (5 exs., 29-VII) (1 ex., 11-IX) クリなど各種広葉樹枯枝, イヌシデ・エゾエノキ材

107. タテジマカミキリ *Aulaconotus pachypezoides*

浜坂町観音山 (3 exs., 7-VI) 関宮町福定 (4 exs., 31-V)

センノキ・コシアブラ生枝

108. シロスジドウボソカミキリ *Pothyne annulata*
浜坂町城山 (1 ex., 1 - I) キブシ材中
109. ドウボソカミキリ *Pseudocalamobius japonicus*
村岡町小城 (1 ex., 16 - VI) 本谷奥 (1 ex., 5 - VIII) ブナ枯枝, 葉上
110. ニイジマチビカミキリ *Egesina bifasciata*
浜坂町城山 (7 exs., 11 - V ~ 18 - VI 羽脱)
村岡町本谷奥 (1 ex., 23 - VII) 広葉樹枯枝
111. ヒメナガサビカミキリ *Pterolophia leiopoina*
浜坂町和田 (3 exs., 12 - VII) (1 ex., 15 - VII) (2 exs., 23 - VII)
温泉町霧ヶ滝 (28 exs., 30 - IV ~ 11 - VI 羽脱) 美方町大谷 (3 exs., 9 - V 羽脱) 村岡町本谷奥 (1 ex., 7 - VII) (1 ex., 8 - VII) (2 exs., 10 - VII) (1 ex., 19 - VII) (1 ex., 23 - VII) 広葉樹枯枝, エゾエノキ材
112. アトジロサビカミキリ *P. zonata*
浜坂町城山 (4 exs., 2 ~ 4 - V 羽脱) (1 ex., 11 - VI) (1 ex., 1 - VII) 和田 (2 exs., 12 - VII) 居組 (1 ex., 17 - VI) 温泉町石橋 (1 ex., 21 - VII) 後山 (6 exs., 3 ~ 11 - V 羽脱) 霧ヶ滝 (18 exs., 7 - V ~ 2 - VI 羽脱) 村岡町大笹鉢北 (1 ex., 5 - VII) 作山 (8 exs., 5 - VII) 小城 (1 ex., 12 - VI) (1 ex., 4 - VII) (2 exs., 22 - VII) 本谷奥 (2 exs., 6 - VII) (3 exs., 7 - VII) (4 exs., 8 - VII) (4 exs., 10 - VII) (8 exs., 19 - VII) (2 exs., 23 - VII) (2 exs., 29 - VII) (1 ex., 11 - IX) フジ・タブノキ・カエデ類など各種枯枝
113. クリサビカミキリ *P. castaneivora*
村岡町本谷奥 (1 ex., 10 - VII) 枯枝
114. エゾサビカミキリ *P. tsurugiana*
村岡町本谷奥 (9 exs., 6 - VII) (1 ex., 7 - VII) (1 ex., 8 - VII) (2 exs., 10 - VII) (5 exs., 19 - VII) (1 ex., 22 - VII) (1 ex., 23 - VII) (1 ex., 5 - VII) (1 ex., 11 - IX) ブナ・カエデ類枯枝
115. トガリシロオビサビカミキリ *P. caudata*
浜坂町城山 (1 ex., 26 - V 羽脱) (1 ex., 1 - VII) (1 ex., 23 - VII) (1 ex., 28 - VII) 観音山 (1 ex., 23 - VII) 和田 (1 ex., 23 - VII) 諸寄

(1 ex., 29-VII) 温泉町霧ヶ滝 (1 ex., 6-VI 羽脱) 檜尾 (2 exs., 25-VII) 村岡町小城 (1 ex., 4-VII) (1 ex., 22-VII) 本谷奥 (2 exs., 7-VII) (1 ex., 10-VII) (2 exs., 19-VII) (1 ex., 23-VII) (3 exs., 29-VII) (1 ex., 11-IX) (1 ex., 19-IX) 村岡 (13exs., 18-VIII) (3 exs., 19-IX) 美方町小代溪谷 (1 ex., 18-VIII) 関宮町福定 (3 exs., 9-VII) 大屋町横行 (2 exs., 21-VIII) スダジイ・フジ・クリ・イチジクなどの枯枝

116. アトモンサビカミキリ *P. granulata*

浜坂町城山 (2 exs., 16-V) (1 ex., 17-VI) 観音山 (1 ex., 25-V) (1 ex., 28-V) (3 exs., 7-VI) (1 ex., 23-VII) (2 exs., 10-X) 和田 (4 exs., 12-VII) 久斗山 (2 exs., 5-V) (1 ex., 23-V) 温泉町後山 (1 ex., 5-V) 石橋 (2 exs., 18-VII) (1 ex., 21-VII) 香住町下浜 (1 ex., 9-V) 村岡町村岡 (1 ex., 19-IX) 本谷奥 (1 ex., 4-VII) (1 ex., 6-VII) (2 exs., 7-VII) (1 ex., 8-VII) (5 exs., 10-VII) (1 ex., 19-VII) (1 ex., 23-VII) (24exs., 11-IX) (30exs., 19-IX) (39exs., 9-X) (19exs., 19-X) (2 exs., 27-X) 関宮町福定 (2 exs., 9-VII) 奈良尾 (1 ex., 26-VII) ブナ・ホオノキ・フジ・タブノキ・アオキ・センノキ・コナラ・カキ・クワ・イチジク枯枝

117. ナカジロサビカミキリ *P. jugosa*

温泉町霧ヶ滝 (1 ex., 4-VI 羽脱) 肥前畑 (3 exs., 18-VI~4-VII 羽脱) 美方町大谷 (1 ex., 4-VII 羽脱) 本谷奥 (3 exs., 11-IX) (2 exs., 19-IX) (5 exs., 9-X) (10exs., 19-X) コシアブラ・タカノツメ・クリ・ブナ枯枝, エゾエノキ材

118. ワモンサビカミキリ *P. annulata*

浜坂町城山 (3 exs., 1-VI) (1 ex., 6-VII 羽脱) 村岡町本谷奥 (1 ex., 10-VII) フジ枯蔓

119. セダカコブヤハズカミキリ *Parechthistatus gibber*

浜坂町本谷 (1 ex., 25-VI) (1 ex., 30-VII) 温泉町扇ノ山畑ヶ平 (1 ex., 15-IX) 村岡町熊波 (1 ex., 21-VII) 本谷奥 (1 ex., 8-VII) (4 exs., 10-VII) (2 exs., 19-VII) (1 ex., 7-VIII) (6 exs., 11-IX) (1 ex., 19-IX) 美方町小代溪谷 (1 ex., 18-VII) 関宮町福定 (2 exs., 14-VI) (1 ex., 9-VII) 氷ノ山大平頭 (1 ex., 27-VI)

ミズナラ・ヤマグワ・イチジク・ホオノキ・ブナ・ヤマボウシ・シナノキ・
コシアブラ枯枝・半枯葉，葉上，路上

120. イタヤカミキリ *Mecynippus pubicornis*
関宮町福定 (1 ex., 9-VII) 飛翔中
121. マツノマダラカミキリ *Monochamus alternatus*
温泉町海上 (18 exs., 17-VI~10-VII 羽脱) 村岡町長板 (1 ex., 21-VIII)
アカマツ伐採木・材
122. ヒメヒゲナガカミキリ *M. subfasciatus*
浜坂町城山 (1 ex., 9-VI) (1 ex., 11-VI) (1 ex., 22-VI) (2 exs.,
1-VII) (1 ex., 11-VII) (1 ex., 12-VII) (8 exs., 21-IV~22-V
羽脱) 和田 (1 ex., 22-VI) (1 ex., 1-VII) (3 exs., 12-VII)
(2 exs., 15-VII) (2 exs., 23-VII) 観音山 (1 ex., 11-VII) 居組
(1 ex., 6-VI 羽脱) 温泉町海上 (1 ex., 24-VI) 石橋 (2 exs., 21-VII)
霧ヶ滝 (8 exs., 5~10-V 羽脱) 村岡町大笹鉢北 (1 ex., 5-VII)
(2 exs., 7-VII) (1 ex., 8-VII) (1 ex., 9-VII) (1 ex., 31-VII)
和佐父 (4 exs., 19-VII) 作山 (1 ex., 5-VII) 長板 (1 ex., 20-VII) 小城
(1 ex., 16-VI) 本谷奥 (1 ex., 7-VII) (1 ex., 10-VII) (2 exs., 19-
VII) (1 ex., 11-IX) 関宮町福定 (1 ex., 9-VII) (3 exs., 26-VII)
大屋町横行 (1 ex., 21-VIII) アカメガシワ・サワグルミ・ジャケツイバラ・
カキ・オニグルミ・シナノキ・コナラなどの枯枝
123. ゴマダラカミキリ *Anoplophora malasiaca*
浜坂町城山 (1 ex., 23-VII) (3 exs., 27-VII) 居組 (1 ex., 15-VII)
諸寄奥町 (3 exs., 15-VII) 本谷 (1 ex., 10-IX) 村岡町相岡 (1 ex., 15-
IX 上田 裕) ヤナギ類・エノキ・イタドリ生枝
124. センノキカミキリ *Acalolepta luxuriosa*
浜坂町城山 (1 ex., 24-VII) 観音山 (1 ex., 11-VII) 温泉町越坂 (1 ex.,
29-VII) 村岡町長板 (1 ex., 19-VII) 本谷奥 (1 ex., 4-VII) (1 ex., 11-
IX) 関宮町福定 (1 ex., 26-VII) (4 exs., 31-VII)
センノキ枝先・倒木，コシアブラ伐採木，飛翔中
125. ピロウドカミキリ *A. fraudatrix*
浜坂町観音山 (1 ex., 11-VII) 居組 (1 ex., 29-VII) 久斗山 (1 ex., 10-

- IX) 本谷 (1 ex., 10-IX) 温泉町霧ヶ滝 (1 ex., 31-VII) 村岡町小城
(1 ex., 22-VII) 長板 (1 ex., 19-VII) (1 ex., 21-VIII) 本谷奥 (1 ex.,
6-VII) (1 ex., 19-VII) 美方町小代溪谷 (1 ex., 18-VIII) 大屋町横行
(1 ex., 21-VIII) クリ・ブナ・サクラ類枯枝, 灯火, 路上
126. ニセビロウドカミキリ *A. sejuncta*
温泉町後山 (1 ex., 22-V 羽脱) 村岡町祖岡 (1 ex., 9-VII) 本谷奥
(1 ex., 6-VII) (1 ex., 7-VII) (1 ex., 23-VII)
ブナ枯枝, 灯火
127. ヤハズカミキリ *Uraecha bimaculata*
浜坂町城山 (1 ex., 24-VII) 田井 (1 ex., 12-VII) 温泉町石橋 (3 exs.,
18-VII) (1 ex., 21-VII) 村岡町本谷奥 (1 ex., 8-VII) (1 ex., 10-VII)
(2 exs., 19-VII) (1 ex., 23-VII)
クワ・アカメガシワ半枯枝
128. キボシカミキリ *Pascothea hilaris*
浜坂町城山 (1 ex., 11-VII) (1 ex., 16-南) 本谷 (1 ex., 20-VIII)
温泉町細田 (1 ex., 10-IX) 後山 (1 ex., 20-IX) 伊角 (1 ex., 25-VI)
石橋 (1 ex., 18-VII) (1 ex., 21-VII) 青下 (2 exs., 25-VI) (1 ex.,
24-VII) 村岡町小城 (1 ex., 22-VII) 熊波 (3 exs., 21-VII)
村岡 (3 exs., 9-VII) 関宮町奈良尾 (2 exs., 7-VII) (1 ex., 9-VII)
(1 ex., 26-VII) 外野 (9 exs., 18-VIII) 大屋町横行 (1 ex., 21-VIII)
クワ生木, カラスザンショウ伐採木
129. ホシベニカミキリ *Eupromus ruber*
浜坂町城山 (2 exs., 16-VII) 観音山 (1 ex., 25-V) (5 exs., 11-VII)
田井 (2 exs., 24-VI) 居組 (1 ex., 6-VI) (5 exs., 17-VI)
タブノキ生枝
130. ヨコヤマヒゲナガカミキリ *Dolichoprosopus yokoyamai*
浜坂町 (1 ex., 30-VII) (1 ex., 3-VIII) (1 ex., 5-VIII) (2 exs., 6-
VIII) (2 exs., 8-VIII) (1 ex., 18-VIII) (1 ex., 20-VIII) 村岡町 (1 ex.,
29-VII) (3 exs., 4-VII) (1 ex., 5-VIII) (1 ex., 7-VIII) (1 ex.,
11-IX) ブナ生木
131. チャボヒゲナガカミキリ *Xenicotela pardalina*

浜坂町城山 (1 ex., 13-V 羽脱) 温泉町石橋 (2 exs., 18-VII)

村岡町本谷奥 (1 ex., 6-VII)

カラスザンショウ材, サンショウ・ミズナラ枯枝

132. クワカミキリ *Apriona japonica*

浜坂町本谷 (3 exs., 20-VIII) 村岡町小城 (2 exs., 19-VIII) クワ生木

133. シロスジカミキリ *Batocera lineolata*

浜坂町観音山 (1 ex., 7-VI) 久斗山 (1 ex., 10-IX) 本谷 (1 ex., 3-VII)

村岡町熊波 (1 ex., 21-VII) 和佐父 (1 ex., 16-VIII)

スダジイ・コナラ・イチジク・ブナ生枝

134. ヒゲナガゴマフカミキリ *Palimna liturata*

温泉町扇ノ山小ヅッコ (2 exs., 17-VIII) 関宮町氷ノ山北尾根 (1 ex., 29-VIII) ブナ倒木

135. タカサゴシロカミキリ *Olenecamptus formosanus*

村岡町村岡 (3 exs., 9-VII) ノグルミ生葉

136. オオシロカミキリ *O. cretataceus*

温泉町後山 (11 exs., 30-V~17-VI 羽脱) (8 exs., 4~27-VII 羽脱)
材を2回採取, 樹種不明

137. エゾナガヒゲカミキリ *Hirtaeschopalea nubila*

浜坂町城山 (4 exs., 21~25-IV 羽脱) (1 ex., 30-V) (9 exs., 4~19-VII 羽脱)

温泉町檜尾 (126 exs., 27-VI~16-VIII 羽脱)

草上, ニガキ衰弱木, ニガキ材

138. セミスジコブヒゲカミキリ *Rhodopina lewisii*

浜坂町城山 (3 exs., 11~14-V 羽脱) コナラ材

139. ヒトオビアラゲカミキリ *Rhopaloscelis unifasciatus*

浜坂町城山 (34 exs., 17-IV~24-V 羽脱) (1 ex., 16-VII) 観音山

(2 exs., 7-VI) 温泉町宮脇 (2 exs., 29-III) 村岡町本谷奥 (2 exs., 8-VII) (3 exs., 10-VII) (1 ex., 29-VII)

ハウノキ・センノキ枯枝, アカメガシワ・ケヤキ材

140. フタモンアラゲカミキリ *R. maculatus*

浜坂町城山 (3 exs., 24-VII) 観音山 (1 ex., 23-VII) 村岡町本谷奥

(1 ex., 8-VII) (2 exs., 10-VII) (2 exs., 19-VII) (2 exs., 22-

- Ⅶ) (1 ex., 23-Ⅶ) (11exs., 29-Ⅶ) (1 ex., 11-Ⅸ) (1 ex., 19-Ⅸ) ツクバネウツギ・スダジイ・ツルウメモドキ枯枝・枯蔓
141. フタオビアラゲカミキリ *Arhopaloscelis bifasciatus*
 温泉町後山 (1 ex., 18-Ⅵ) 村岡町本谷奥 (1 ex., 6-Ⅶ) (3 exs., 7-Ⅶ) (3 exs., 8-Ⅶ) (1 ex., 10-Ⅶ) (4 exs., 19-Ⅶ) (1 ex., 29-Ⅶ) 枯枝
142. クモノスモンサビカミキリ *Graphidessa venata*
 村岡町本谷奥 (1 ex., 19-Ⅸ) (1 ex., 9-X) (3 exs., 19-X)
 ブナ・タカノツメ枯枝
143. チビコブカミキリ *Miccolamia verrucosa*
 村岡町本谷奥 (2 exs., 8-Ⅶ) (1 ex., 27-X) ツルウメモドキ枯枝
144. ハイイロツツクビカミキリ *Cylindrilla grisescens*
 村岡町本谷奥 (1 ex., 11-Ⅸ) (1 ex., 19-X)
 ツルウメモドキ・ウワミズザクラ枯蔓・枯枝
145. ドイカミキリ *Mimectatina divaricata*
 温泉町後山 (2 exs., 11-Ⅶ~8-Ⅷ 羽脱) 村岡町本谷奥 (2 exs., 6-Ⅶ) (1 ex., 7-Ⅶ) (3 exs., 8-Ⅶ) (2 exs., 10-Ⅶ) (3 exs., 19-Ⅶ) (4 exs., 23-Ⅶ) (4 exs., 11-Ⅸ) (3 exs., 19-Ⅸ) (12exs., 9-X) (14exs., 19-X) (2 exs., 27-X) (4 exs., 4-X) ブナ・ホオノキ・ウワミズザクラ・アオハダ・ミズナラなどの枯枝
146. キバネアラゲカミキリ *Anaethobrium luteipenne*
 浜坂町田井 (1 ex., 12-Ⅶ) 温泉町石橋 (1 ex., 21-Ⅶ) クワ半枯れ枝
147. ネジロカミキリ *Pogonocherus seminiveus*
 村岡町本谷奥 (2 exs., 9-X) (31exs., 19-X) (7 exs., 27-X) (4 exs., 4-XI) コシアブラ・タカノツメ・ブナ枯枝
148. ヒゲナガモモフトカミキリ *Acanthocinus griseus*
 温泉町海上 (1 ex., 17-Ⅵ 羽脱) アカマツ材
149. ゴマダラモモフトカミキリ *Leiopus stillatus*
 村岡町小城 (1 ex., 12-Ⅵ) 関宮町氷ノ山大平頭 (1 ex., 27-Ⅵ)
 ケンボナシ枯枝, ブナ生葉
150. トゲバカミキリ *Rondibilis saperdina*

浜坂町観音山 (2 exs., 23-VII) 和田 (1 ex., 12-VII) 本谷奥 (1 ex., 7-VII) (2 exs., 8-VII) (2 exs., 10-VII) (7 exs., 19-VII) (1 ex., 22-VII) (2 exs., 23-VII) (1 ex., 29-VII) (2 exs., 5-VIII)

ブナ・ミズナラ・スダジイ枯枝

151. ホウノキトゲバカミキリ *R. sapporensis*

浜坂町観音山 (1 ex., 23-VII) (1 ex., 1-VIII) 村岡町本谷奥 (2 exs., 8-VII) (4 exs., 10-VII) (6 exs., 29-VII) (3 exs., 4-VIII)

(14exs., 5-VIII) (3 exs., 11-IX) ホオノキ枯枝

152. キッコウモンケシカミキリ *Exocentrus testudineus*

村岡町本谷奥 (7 exs., 6-VII) (8 exs., 7-VII) (5 exs., 8-VII) (5 exs., 10-VII) (1 ex., 19-VII) (1 ex., 22-VII) (2 exs., 23-VII)

ミズナラ・ネムノキ・カエデ類枯枝

153. *Exocentrus* sp.

村岡町本谷奥 (1 ex., 3-VII) (7 exs., 4-VII) (11exs., 6-VII) (1 ex., 7-VII) (8 exs., 8-VII) (14exs., 10-VII) (4 exs., 19-VII) (2 exs., 22-VII) (1 ex., 23-VII)

ブナ・ミズナラ枯枝

前種によく似るがやや細長く、上翅の斑紋が不明瞭になる。矢野他 (1986) により広島虫の会会報第25号で図示されたものと同じと思われる。

154. ガロアケシカミキリ *E. galloisi*

浜坂町城山 (2 exs., 8~11-VI 羽脱) 観音山 (1 ex., 1-VII) 和田 (2 exs., 12-VII) (1 ex., 15-VII) (2 exs., 23-VII) 温泉町花口

(24exs., 21-V~15-VI 羽脱) 村岡町本谷奥 (3 exs., 6-VII)

(1 ex., 7-VII) (15exs., 8-VII) (17exs., 10-VII) (8 exs., 19-VII) (1 ex., 22-VII) (2 exs., 23-VII)

スダジイ・ミズナラ・コナラ材, アカガシ材

155. アトモンマルケシカミキリ *E. lineatus*

浜坂町城山 (1 ex., 6-VI 羽脱) 和田 (1 ex., 11-VII) (1 ex., 12-VII)

観音山 (1 ex., 23-VII) 温泉町蒲生峠 (1 ex., 25-VII) (7 exs., 27-VII)

村岡町本谷奥 (1 ex., 8-VII) (5 exs., 10-VII) (6 exs., 19-VII)

(3 exs., 22-VII) (2 exs., 23-VII) (2 exs., 29-VII) (1 ex., 11-IX)

アワブキ・カエデ類・スダジイ枯枝

156. クモガタケシカミキリ *E. fasciolatus*
 浜坂町城山 (21exs., 2-VI~14-VII 羽脱) 温泉町後山 (6 exs., 8-VI
 ~13-VII 羽脱) 檜尾 (19exs., 2~19-VII 羽脱) 村岡町本谷奥 (1 ex.,
 19-VII) (1 ex., 22-VII) 枯枝, ニガキ材
157. シラオビゴマフケシカミキリ *E. guttulatus*
 温泉町花口 (3 exs., 22~24-V 羽脱) 肥前畑 (2 exs., 28-V 羽脱)
 村岡町本谷奥 (4 exs., 6-VII) (5 exs., 8-VII) (3 exs., 10-VII)
 (11exs., 19-VII) (1 ex., 22-VII) 村岡 (1 ex., 18-VIII) 関宮町奈良尾
 (3 exs., 9-VII) ネムノキ・フジ・クワ枯枝
158. クロオビトゲムネカミキリ *Sciades fasciatus*
 浜坂町城山 (7 exs., 30-V~19-VI 羽脱) スダジイ材
159. ケシカミキリ *S. tonsus*
 浜坂町城山 (12exs., 24-V~6-VI 羽脱) (1 ex., 22-VI) (1 ex.,
 9-VII) 和田 (1 ex., 22-VI) キブシなどの枯枝
160. ブロイニングカミキリ *Saperda ohbayashii*
 美方町小代溪谷 (1 ex., 5-VII) オニグルミ生葉
161. ヤツメカミキリ *Eutetrappa ocelota*
 村岡町粗岡 (1 ex., 6-VII) ソメイヨシノ樹幹
162. ハンノアオカミキリ *E. chrysochloris*
 美方町小代溪谷 (5 exs., 18-VIII) 関宮町福定 (2 exs., 26-VII) (1 ex.,
 29-VII) (1 ex., 9-VIII) トチノキ・シナノキ伐採木 夕刻産卵
163. フチグロヤツボシカミキリ *Pareutetrappa eximia*
 温泉町青下 (1 ex., 25-VI) 村岡町兎和野 (4 exs., 26-VI) 小城 (1 ex.,
 16-VI) (12exs., 20-VI) (1 ex., 4-VII) ホオノキ生葉
164. ニセシラホシカミキリ *P. simulans*
 浜坂町本谷 (3 exs., 25-VI) (1 ex., 20-VIII) 村岡町大笹鉢北 (1 ex.,
 14-VI) (2 exs., 7-VII) 小城 (4 exs., 12-VI) (1 ex., 20-VI)
 (3 exs., 4-VII) 本谷奥 (1 ex., 10-VII) 関宮町福定 (1 ex., 20-VI)
 鉢高原 (6 exs., 7-VII) サワフタギ・ナツツバキ生葉
165. ハンノキカミキリ *Cagosima sanguinolenta*
 美方町備 (1 ex., 30-V) 関宮町福定 (1 ex., 31-V) (12exs., 14-VI)

ヤマハンノキ生葉

166. ラミーカミキリ *Paraglenea fortunei*
 浜坂町城山 (9 exs., 17-VI) (14 exs., 22-VI) (2 exs., 1-VII)
 (2 exs., 9-VII) (3 exs., 11-VII) (3 exs., 12-VII) (1 ex., 23-VII)
 観音山 (1 ex., 11-VII) 赤崎 (6 exs., 12-VII) 本谷 (1 ex., 25-VII)
 諸寄奥町 (2 exs., 15-VII) 温泉町後山 (3 exs., 9~30-V 羽脱)
 石橋 (2 exs., 21-VII) 村岡町村岡 (4 exs., 9-VII) 熊波 (1 ex., 21-VII)
 和佐父 (1 ex., 26-VII) (1 ex., 16-VIII) 関宮町奈良尾 (1 ex., 9-VII)
 カラムシ生葉, 広葉樹枯枝より羽脱
167. キモンカミキリ *Menesia sulphurata*
 温泉町肥前畑 (9 exs., 21-V~2-VII 羽脱) 村岡町大笹鉢北 (1 ex., 14-VI)
 (3 exs., 8-VII) 小城 (1 ex., 3-VII)
 サワグルミ生葉・枯枝・材
168. オニグルミノキモンカミキリ *M. flavotecta*
 浜坂町城山 (32 exs., 1-VII) (1 ex., 25-VII) 村岡町和佐父 (8 exs., 19-VII)
 オニグルミ生葉・枯枝
169. ジュウニキボシカミキリ *Paramenesia theaphia*
 浜坂町本谷 (20 exs., 25-VI) 村岡町小城 (3 exs., 12-VI) (3 exs., 16-VI)
 (2 exs., 4-VII) (1 ex., 6-VII) (3 exs., 22-VII)
 センノキ生葉
170. イッシキキモンカミキリ *Glenea centroguttata*
 浜坂町城山 (1 ex., 12-VII) (2 exs., 16-南) (2 exs., 24-VII)
 (2 exs., 25-VII) (1 ex., 6-VIII) (1 ex., 28-VII) 田井 (2 exs., 12-VII)
 赤崎 (1 ex., 12-VII) 久斗山 (5 exs., 20-VII) 本谷 (3 exs., 20-VIII)
 温泉町蒲生峠 (2 exs., 16-VIII) 村岡町小城 (4 exs., 19-VIII)
 美方町小代溪谷 (2 exs., 7-VIII) 関宮町大久保 (3 exs., 7-VII)
 (4 exs., 31-VII) 轟 (1 ex., 26-VII) 外野 (2 exs., 18-VII)
 トウグワ・ヤマグワ・ケグワ生葉
171. シラホシカミキリ *G. relictata*
 浜坂町城山 (1 ex., 15-V 羽脱) (1 ex., 12-VII) 諸寄 (1 ex., 11-VI)
 和田 (1 ex., 22-VI) (1 ex., 24-VI) 本谷 (2 exs., 25-VII) 温泉町石橋

(1 ex., 21-VII) 海上 (1 ex., 29-VII) 海上林道 (1 ex., 16-VI) 後山
 (1 ex., 11-VI 羽脱) (1 ex., 18-VI) 村岡町小城 (1 ex., 20-VI)
 (1 ex., 4-VII) 本谷奥 (1 ex., 19-VII) 作山 (3 exs., 5-VII) 耀山
 (1 ex., 26-VI)

サルナシ・ガマズミ・リョウブ・ゴトウヅル生葉, コナラ伐採木

172. シラホシキクスイカミキリ *Eumecocera gleneoides*

村岡町小城 (16exs., 4-VII) (1 ex., 22-VII) 村岡 (1 ex., 9-VII)
 関宮町福定 (1 ex., 14-VI) 氷ノ山大平頭 (1 ex., 27-VI)

ケヤキ・シナノキ生葉

173. クロニセリングカミキリ *E. unicolor*

関宮町福定 (18exs., 14-VI) (7 exs., 20-VI) (1 ex., 27-VI)
 氷ノ山大平頭 (5 exs., 27-VI) シナノキ生葉・伐採木

174. チチブニセリングカミキリ *Nipponostenostola nipponensis*

温泉町肥前畑 (5 exs., 9~14-V 羽脱) 関宮町福定 (4 exs., 14-VI)
 (5 exs., 20-VI) (1 ex., 27-VI) シナノキ生葉, サワグルミ材

175. キクスイカミキリ *Phytoecia rufiventris*

浜坂町城山 (8 exs., 9-V) (3 exs., 6-VI) (1 ex., 9-VI)
 居組 (1 ex., 6-VI) 村岡町耀山 (1 ex., 26-VI)
 ヨモギ・オトコヨモギ・ワカサハマギク茎・葉

176. ヨツキボシカミキリ *Epiglenea comes*

浜坂町城山 (5 exs., 6-VI) (1 ex., 11-VI) (1 ex., 16-VI)
 (2 exs., 17-VI) (1 ex., 27-VI) (2 exs., 1-VII) 観音山
 (1 ex., 9-VI) 村岡町長板 (1 ex., 20-VII) 小城 (1 ex., 30-V)
 (1 ex., 20-VI) (1 ex., 6-VII) (1 ex., 19-VIII) 関宮町福定
 (1 ex., 27-VI) 大久保 (1 ex., 31-VII) ヌルデ生葉

177. ヘリグロリングカミキリ *Nupserha marginella*

浜坂町城山 (1 ex., 1-VI) (2 exs., 9-VI) (1 ex., 11-VI)
 (8 exs., 17-VI) (2 exs., 22-VI) (1 ex., 1-VII) (2 exs., 12-VI)
 VII) 田井 (1 ex., 1-VII) 本谷 (2 exs., 25-VI) 温泉町檜尾 (1 ex., 25-VI)
 VI) 青下 (1 ex., 25-VI) 石橋 (1 ex., 18-VII) 村岡町作山 (3 exs., 5-VI)
 VII) 小城 (1 ex., 3-VI) (2 exs., 4-VI) (1 ex., 22-VI) (1 ex.,

19-Ⅷ) 大笹鉢北 (2 exs., 5-Ⅶ) (6 exs., 7-Ⅶ) (3 exs., 8-Ⅶ) 美方町小代溪谷 (1 ex., 21-Ⅵ) (1 ex., 18-Ⅷ) 関宮町鉢高原 (4 exs., 7-Ⅶ) 大屋町横行 (1 ex., 21-Ⅷ) ヨモギ・フキなどの葉上

178. ヒメリングカミキリ *Oberea hebescens*

浜坂町城山 (6 exs., 27-V) (12 exs., 28-V) (2 exs., 30-V) (2 exs., 1-VI) (1 ex., 7-VI) (1 ex., 11-VI) (1 ex., 17-VI) 観音山 (6 exs., 28-V) (2 exs., 9-VI) 村岡町小城 (3 exs., 12-VI) (3 exs., 16-VI) (3 exs., 20-VI) 本谷奥 (2 exs., 10-VI) 大笹鉢北 (2 exs., 7-Ⅶ) 関宮町氷ノ山大平頭 (2 exs., 27-VI) ヤブニッケイ・シロダモ・クロモジ・ダンコウバイ・アブラチャン生葉

179. リングカミキリ *O. japonica*

浜坂町城山 (1 ex., 24-Ⅶ) 村岡町大笹鉢北 (1 ex., 31-Ⅶ) 関宮町大久保 (1 ex., 7-Ⅶ) ナナカマド・オオシマザクラ生葉

180. ソボリングカミキリ *O. sobosana*

村岡町兎和野 (1 ex., 26-VI) レンゲツツジ生葉

181. ニセリングカミキリ *O. mixta*

浜坂町城山 (1 ex., 17-VI) 和田 (1 ex., 22-VI) 村岡町村岡 (1 ex., 9-Ⅶ) スイカズラ生葉

182. ホソキリングカミキリ *O. infranigrescens*

浜坂町城山 (1 ex., 11-VI) 村岡町小城 (1 ex., 20-VI) 本谷奥 (1 ex., 6-Ⅶ) 関宮町福定 (1 ex., 9-Ⅶ) 飛翔中, ゴトウヅル周辺

183. ホソツツリングカミキリ *O. nigriventris*

村岡町小城 (1 ex., 22-Ⅶ) イケマ生葉

184. ルリカミキリ *Bacchisa fortunei*

村岡町本谷奥 (1 ex., 6-Ⅶ) ナナカマド周辺

今回は春から秋まで継続して調査を行うことができた。枯枝の持ち帰りも行ったので、クロオビトゲムネやエゾナガヒゲなどのような人の目に触れにくい種類にも出会えた。春からシロスジドウボソ、オオハナ、ナカネアメイロなどとの新しい出会いが多かったし、秋にネジロやドイが大量に出現することを知った驚きも新鮮だった。普通種重視には一層こだわるようになり、今回の紙数もかさばっ

てしまったが、但馬では普通種の方がむしろ過去の文献記録が少ないため、敢えて全記録を掲載した。

ブナ帯では村岡町小城・本谷奥に通い、扇ノ山からはすっかり遠ざかってしまった。また、個人的には浜坂町海岸部のカミキリムシに最も関心を寄せている。このような場所を歩いているのは私独りかと思いがっていたが、実はすでに半世紀の永きにわたって同じ地域でカミキリムシを調べておられた方にこの冬お目にかかる機会があり、大きな感動を覚えた。微力ながら、カミキリ相の解明に向けて努力していきたい。さらに、滅多に人に会わない村岡町の山中で、幼少の頃よりの恩師に偶然ばったり出会ったことも忘れられない思い出である。

本年もまた多くの方々から助言を受け、そしてお世話になった。感謝したい。

なお、永幡(1993)を読み返したところ、私の不注意から訂正箇所がいくつも見つかったのでここで訂正しておく。

20. ナガバヒメハナカミキリ (53ページ)

温泉町霧ヶ滝 (4 exs., 27-V) → (3 exs., 27-V)

温泉町扇ノ山畑ヶ平 (6 exs., 14-VI) → (5 exs., 14-VI)

21. キベリクロヒメハナカミキリ (53ページ)

温泉町霧ヶ滝 (4 exs., 27-V) → (5 exs., 27-V)

温泉町扇ノ山小ヅッコ (1 ex., 14-VI) → (3 exs., 14-VI)

23. チャイロヒメハナカミキリ (53ページ)

温泉町扇ノ山畑ヶ平 (3 exs., 14-V) → (3 exs., 14-VI)

48. ホソハナカミキリ *Leptostrangalia hosohana* (57ページ)

→ ミヤマホソハナカミキリ *Idiostrangalia contrata*

78. キンケトラカミキリ (60ページ)

村岡町大~~〜~~ → 村岡町大糠

126. フタオピアラゲカミキリ (65ページ)

美方町小代溪谷 (1 ex., 29-VII) → (4 exs., 29-VII)

以上、ご迷惑をおかけしたことお詫び申し上げます。汗顔の至りである。

ここ3年間で私が但馬で採集した種は、全部で208種になる。

参考文献

永幡嘉之 (1992) 但馬のカミキリムシ'91, 因幡のむし27:21-29.

” (1993) 但馬のカミキリムシ'92, IRATSUME17:51-70.

佐藤邦夫 (1987) 但馬地方のカミキリムシ, IRATSUME11:72-90.

矢野立志・赤木克己・中島清隆 (1986) 吉和村のカミキリムシ,

広島虫の会会報25:1-16.

オオムラサキの新産地

広畑政己

越冬幼虫の調査によって、オオムラサキ *Sasakia charonda* の兵庫県下における新しい産地が近年数多く発見されているが、筆者も市川町と三日月町にて本種の幼虫を採集しているので報告する。

市川町下瀬加の産地は周辺が植林されて本種が生息するにはあまり良い環境とはいえないが、極僅かに残された落葉広葉樹を糧に生き永らえているという状況である。

三日月町の三原はまだ自然が残され、本種にとっては良い環境といえる。これまでもこの地域で採集されたという情報もあり、この周辺では広く分布していると思われる。

<採集記録>

市川町下瀬加	幼虫 9 頭	15 - I - 1992	広畑政己
三日月町三原	幼虫 2 頭	4 - I - 1992	広畑政己

浜坂町久斗山のゼフィルスの記録

永幡嘉之

浜坂町久斗山周辺には標高500~600m級の山々が連なり、ブナが広く分布するなど、植生面ではおもしろい所である。この山にどのようなゼフィルスがいるのか、以前から興味を持っていたが、1993年6月に登る機会があったので、断片的な記録ではあるが報告したい。

25-VI-1993 美方郡浜坂町本谷 永幡嘉之

- アカシジミ *Japonica lutea* 1 ex. クリ花、飛翔中
 ウラクロシジミ *Iratsume orsedice* 2♀♀ マンサクは多く、本種も少なくない。
 ヒサマツミドリシジミ *Chrysozephyrus hisamatsusanus* 1♂ 活動中の1個体のみ。
 ジョウザンミドリシジミ *Favonius taxila* 3♂♂ 3♀♀ 稜線上のクリの花に集まっていた。
 ウスイロオナガシジミ *Antigius butleri* 2 exs. 目撃。採集はできなかった。

今回はヒサマツミドリシジミの採集を主目的としたが、中腹で1頭発見したにとどまった。また、フジミドリシジミも採集することができなかった。しかし、ジョウザンミドリシジミなどは個体数が少なくないので、他の山地性ゼフィルス、例えばアイノミドリやエゾミドリも調査すれば発見できるのではないかと思う。中腹のクリの花では、叩くたびにゼフィルスの影が飛び出したが、ほとんど採集できていない。今後の採集が楽しみである。クリのほかにイソノキも花をつけていたが、こちらにはどの種も飛来していないようだった。

浜坂町城山，初秋の蝶

永幡嘉之

カミキリムシの採集ばかりに夢中になり，蝶からすっかり遠ざかってしまった。時折ネットを向けることがあっても，分布調査のための採集中心となって，観察もずいぶんおろそかになっていた。そこで，いつもと少し違った新鮮な気持ちで，初秋の浜辺を歩いてみた。このようにメモ帳を片手に歩くことは久しぶりだった。採集はしていないが，視点もまたいつもとは違っていたように思う。観察できた蝶類のリストを以下に挙げてみたい。個体数は，+少ない，++普通，+++多い，で表した。

28-VIII-1993 浜坂町城山 晴れ 12:30~15:00 永幡嘉之

種名	吸蜜植物・生態など	個体数
アオスジアゲハ	カラスザンショウ花・日陰の葉上に静止	++
アゲハ	飛翔中	+
キアゲハ	//	+
モンキアゲハ	// ・ 山頂に飛来	+++
クロアゲハ	// ・ //	++
カラスアゲハ	// ・ //	++
ミヤマカラスアゲハ	// ・ //	+
キチョウ	飛翔中	++
スジグロシロチョウ または エゾスジグロシロチョウ	飛翔中	++
ミドリヒョウモン	カラスザンショウ花・下草に静止	+++
ツマグロヒョウモン	山頂に飛来	+
コムスジ	飛翔中	+++
イチモンジチョウ	タニウツギに執着して飛ぶ	++
サカハチチョウ	下草上	+
ゴマダラチョウ	飛翔中	++
スミナガシ	葉上	+

アカタテハ	葉上	+
ルリタテハ	〃	+
ベニシジミ	オトコエシ・カラスザンショウ花	+
ルリシジミ	ヤマハギ花	++
ウラナミシジミ	飛翔中	+
ヤマトシジミ	〃	++
ウラギンシジミ	〃	+
クロヒカゲ	草上・カシワ樹液	++
ヒメウラナミジャノメ	〃・オトコエシ・イノコヅチ花	+++
ウラナミジャノメ	草上 第1化の生き残り	+
ヒメジャノメ	少ない, 草上	+
コジャノメ	多い, 〃 交尾中2組, 中破, 共に←♀+♂	+++
ジャノメチョウ	明るい草地	++
サトキマダラヒカゲ	草上・カシワ樹液 1♂採集	++
ダイミョウセセリ	葉上	+
キマダラセセリ	オトコエシ花	+
イチモンジセセリ	草上	+

他に、ホシミスジらしいものも見たが、確認できなかった。イシガケチョウの幼虫・成虫にも注意していたが、これも見つけることはできなかった。ミドリヒョウモンは、海岸部だがここでは7~8月にも少なくない。

一度連絡誌に掲載したものの再録である。標本のないデータではあるが、同定には確信のもてるもののみを採用した。コジャノメの交尾飛翔形式の発表を勧められ、またモニタリングとしてのこのような記録の重要性を御教示下さった白水隆先生に厚く御礼申し上げる。

ウスバシロチョウの分布調査

永幡嘉之

1. はじめに

1993年5月17日から21日まで、実習のため岡山の蒜山演習林に行くことになった。ウスバシロチョウに熱を上げている者としては、大変辛い実習であった。まだ鳥取で集中講義とかいうのなら方法はあるが、いくら何でも蒜山からそっと抜け出して但馬に通うことなど、気の弱い私でなくともできなかった。どうせ昼には皆が測量している間にタラノキの芽を摘んでまわり、夜には皆が製図している横でテンプラを掲げているような生活だったが、浜坂町など平野部のウスバシロチョウは、この5日間にさっさと活動を終えて姿を消してしまっていた。

また、ちょっとした事情があって、再び汽車+自転車の生活に戻っていた。そのため、多くの場所で記録を出して回る例年とは少し違った調査になった。

1992年度の調査で、温泉町千谷・越坂周辺の個体群と、浜坂町久斗川流域の個体群との間に、各個体の大きさに関して安定した差異が見出せるのではないかという印象をもった。そこで、本年は浜坂町池ヶ平（久斗川流域）、温泉町丹土（照来川流域）花口（岸田川流域）の3か所で、雄成虫の大きさの比較を行ってみた。それ以外の調査はほとんどできなかった。

本文中でのデータは、すべて1993年のものである。

2. 採集記録と雄成虫の大きさの産地間における差異について

以下の3か所で、雄成虫50頭ずつを採集することを目標にしたのだが、但馬は地形的にみても多数が集中して見られるという産地が少なく、1日で採集するのは無理であった。前年の採集品を加えることも考えたが、気象条件の差による影響を考慮して、本年度の採集個体のみを対象とした。

1992年度の採集品についていえば、浜坂町池ヶ平は全体的に小型、温泉町丹土は大型、温泉町花口は中型であった。同じ展翅板を使った際に、全個体がはみ出す、または収まるということが見られたために気づいたものである。

計測にあたっては、原則として右前翅の最大長を測ったが、破損または明らかな奇形の個体は左前翅を測った。

浜坂町池ヶ平	40♂♂ 4♀♀	23-V	40♂♂の前翅長平均	34.75mm
温泉町丹土	52♂♂ 10♀♀	25-V	52♂♂の前翅長平均	34.59mm
温泉町花口	41♂♂ 5♀♀	29-V	41♂♂の前翅長平均	34.83mm

最近、本種の移動力が大きいという報告を見かけるが、同一の河川の支流で個体群の大きさが異なるのであれば面白いと思ったのである。いろいろな先入観をもって計測してみたが、結果的には有意差は見られなかった。池ヶ平では今までにないような大型個体を得られたし、丹土でもかなりの小型個体が混じっていた。参考までに、1992年の浜坂町池ヶ平での採集品10♂♂の前翅長の平均は33.5mm、温泉町越坂・内山・千谷（いずれも蒲生峠周辺）での8♂♂の平均は35.4mmであり、開張にすると4mm近い差があった。この数値を示すことにより、私がこのようない見無意味な計測を思い立った動機もおわかり頂けるかと思う。

3. その他の確認地について

採集記録は、上記の3例の他には温泉町井土（1♀, 25-V）の1例のみである。目撃例として、以下のものがある。

浜坂町久斗山（23-V）この日、久斗山・池ヶ平以外の久斗川流域では曇天のため確認できなかった。温泉町宮脇（29-V）千原にもよい休耕田があったが見られなかった。村岡町小城（16-VI）関宮町福定（14-VI）

4. おわりに

今後も各地でこのような大きさの比較を行ってみよう、という気にはあまりなれないが、1992年度ばかりでなく1991年度の採集品をみても、久斗川流域のものはやはり大部分が小型であり、岸田川本流域のものとは一見してその違いがわかる。本年の結果が絶対的とは思えない。来年からも、低地における発生地状況などに重点を置きつつ、分布状況の把握に努めていきたい。但馬では、まだ本種の分布拡大について論議できるほどのデータは揃っていないように思われる。

但馬におけるトンボの採集記録 (2)

上田尚志

前報に続き、未発表の採集記録を整理する。今回は、ムカシヤンマ科・オニヤンマ科・ヤンマ科をとりあげ、サナエトンボ科については1993年の記録を追加する。参考文献に発表した記録は、今回の報告には含まれていない。

サナエトンボ科

Asiagomphus melaenops ヤマサナエ

竹野町森本 (1993-VI-12, 2♂, 上田)

Gomphus postocularis ホンサナエ

大屋町宮垣 (1993-VI-5, 1♂, 上田), 竹野町林 (1993-VI-12, 2♂, 上田)

Davidius nanus ダビドサナエ

竹野町三原 (1993-VI-21, 1♂ 2♀, 上田)

Sinogomphus flavolimbatus ヒメサナエ

竹野町坊岡 (1993-VI-12, 1♀, 上田)

Nihonogomphus viridis アオサナエ

大屋町宮垣 (1993-VI-5, 1♂, 上田), 竹野町林 (1993-VI-12, 2♂, 上田)

ムカシヤンマ科

Tanypteryx pryeri ムカシヤンマ

豊岡市山本 (1981-V-31, 1♂, 上田; 1987-V-31, 1♀, 上田), 豊岡市森尾 (1988-VI-18, 1♂, 上田), 豊岡市市場 (1988-V-24, 1♀ 1♂, 上田; 1989-V-5, 1♀, 上田), 出石町森井 (1981-V-31, 1♀, 上田), 日高町阿瀬溪谷 (1980-V-24, 1♂, 足立義弘), 日高町三川山 (1988-V-24, 1♀ 1♂, 上

田), 扇ノ山(1987-VI-16, 1 ♂, 上田), 村岡町相岡(1982-VI-5, 1 ♂, 谷角素彦)

オニヤンマ科

Anotogaster sieboldii オニヤンマ

豊岡市上郷(1986-IX-9, 1 ♂, 上田), 八鹿町妙見山(1988-VIII-9, 1 ♀, 上田), 村岡町大笹(1986-VIII, 1 ♂, 上田), 浜坂町宇都野神社(1982-X-10, 1 ♀, 島田), 和田山町(1981-VIII, 1 ♀, 上田)

ヤンマ科

Boyeria maclachlani コシボソヤンマ

和田山町内海(1988-VIII-13, 1 ♂, 西村章)

Polycanthagyna melanictera ヤブヤンマ

和田山町内海(1988-VIII-30, 1 ♂, 長野敏彦), 豊岡市京町(1989-VII-20, 1 ♀, 川辺薫), 豊岡市中筋大師山(1987-VIII-2, 1 ♀, 上田)

Anax nigrofasciatus nigrofasciatus クロスジギンヤンマ

日高町上郷(1985-V-28, 2 ♂, 上田), 八鹿町(1981-V-13, 1 ♂, 山中勝浩), 出石町森井(1981-V-31, 1 ♂, 上田),

Anax parthenope julius ギンヤンマ

日高町上郷(1987-VIII-25, 2 ♂, 上田), 八鹿町浅間(1988-VIII-10, 1 ♂, 上田), 村岡町相岡(1981-VII-18, 1 ♂, 上田),

Aeschnophlebia longistigma アオヤンマ

日高町上郷(1989-VI-7, 1 ♂, 上田), 豊岡市小島(1992-VII-7, 1 ♂, 上田)

Oligoaeschna pryeri サラサヤンマ

豊岡市市場(1989-VI-3, 2 ♂, 上田; 1991-V-30, 2 ♂, 上田), 日高町上郷(1990-VI-12, 1 ♀, 上田), 豊岡市三坂(1990-V-18, 1 ♀, 成田しずか),

出石町森井 (1981-V-31, 1 ♂, 上田), 豊岡市森尾 (1988-VI-18, 1 ♂, 上田),
竹野町坊岡 (1993-VI-21, 1 ♂, 上田)

Planaeschna milnei ミルンヤンマ

八鹿町石原 (1988-VIII-9, 1 ♂, 上田)

Gynacantha japonica カトリヤンマ

和田山町枚田 (1984-X-24, 1 ♀ 1 ♂, 上田; 1984-X-25, 1 ♂, 上田)

参考文献

上田尚志 (1986) クロスジギンヤンマを9月下旬に採集, IRATSUME10:40.

上田尚志 (1988) 但馬におけるルリボシヤンマとオオルリボシヤンマの記録,

IRATSUME12:34-36.

《 IRATSUME の原稿募集 》

IRATSUME19号の原稿を募集します。標本箱やフィールドノートに眠ったままになっている記録, 今シーズンの成果などをどんどんお寄せください。

各昆虫のデータのまとめや生態観察記はもちろん, 採集記や短報も歓迎します。原稿執筆に際しては, 必ず投稿規定をお読みください。

原稿の締切は, 1995年1月末です。

送付先・問合せ先は, ㊞567 茨木市新中条町5-36-102 谷角素彦まで。

円山川下流域におけるヒヌマイトトンボの分布

上田尚志

1992年に円山川の下流域に分布することが確認されたヒヌマイトトンボ *Mortonagrion hirosei* の、分布状況を調査した。

二宗(1993)によって報告された城崎町桃島池および豊岡市玄武洞に加えて、城崎町菊屋島、城崎町楽々浦で生息を確認した。また、円山川公苑、楽々浦から玄武洞の間のヨシ原も調査したが確認できなかった。

なお、この調査は兵庫県立豊岡高等学校生物部員と共におこなったものである。

城崎町桃島池

- 1993-V-29, 確認できず
- 1993-VI-9, 確認できず
- 1993-VI-22, 2♂2♀採集, 多数目撃
- 1993-VI-24, 多数目撃
- 1993-VII-31, 多数目撃, 交尾行動が観察された
- 1993-VIII-30, 1♂目撃

城崎町菊屋島

- 1993-VII-26, 1♀採集, 1♀2♂目撃, 個体数は少ない

城崎町楽々浦

- 1993-VI-26, 1♂1♀採集

豊岡市玄武洞

- 1993-VII-18, 1♂1♀採集
- 1993-VII-22, 2♂1♀目撃

参考文献

二宗誠治(1993) 兵庫県北部地方のヒヌマイトトンボ, *Sympetrum* 1:4-7.

兵庫県におけるルリクワガタ属の分布について

佐藤邦夫・永幡嘉之

兵庫県では、ルリクワガタとコルリクワガタの2種のルリクワガタ属が記録されているが、鳥取県境の扇ノ山・氷ノ山山塊以外では極めて珍しいようで、僅かな産地しか報告されていない。

佐藤(1993)は神崎町笠形山、永幡(1993)は城崎町来日岳でのコルリクワガタの採集記録を報告したが、その後も各地で調査を続けているので、現在までの状況を報告する。

ルリクワガタ属のクワガタは、産卵に際して独特の(・)マークを付けることから、成虫を採集しなくても生息を推定することができる。また、秋に朽木中で羽化、翌春に脱出するが、コルリクワガタでは春に広葉樹の新芽に集まることが知られている。そのため、秋の記録はすべて朽木くずしで採集したものである。

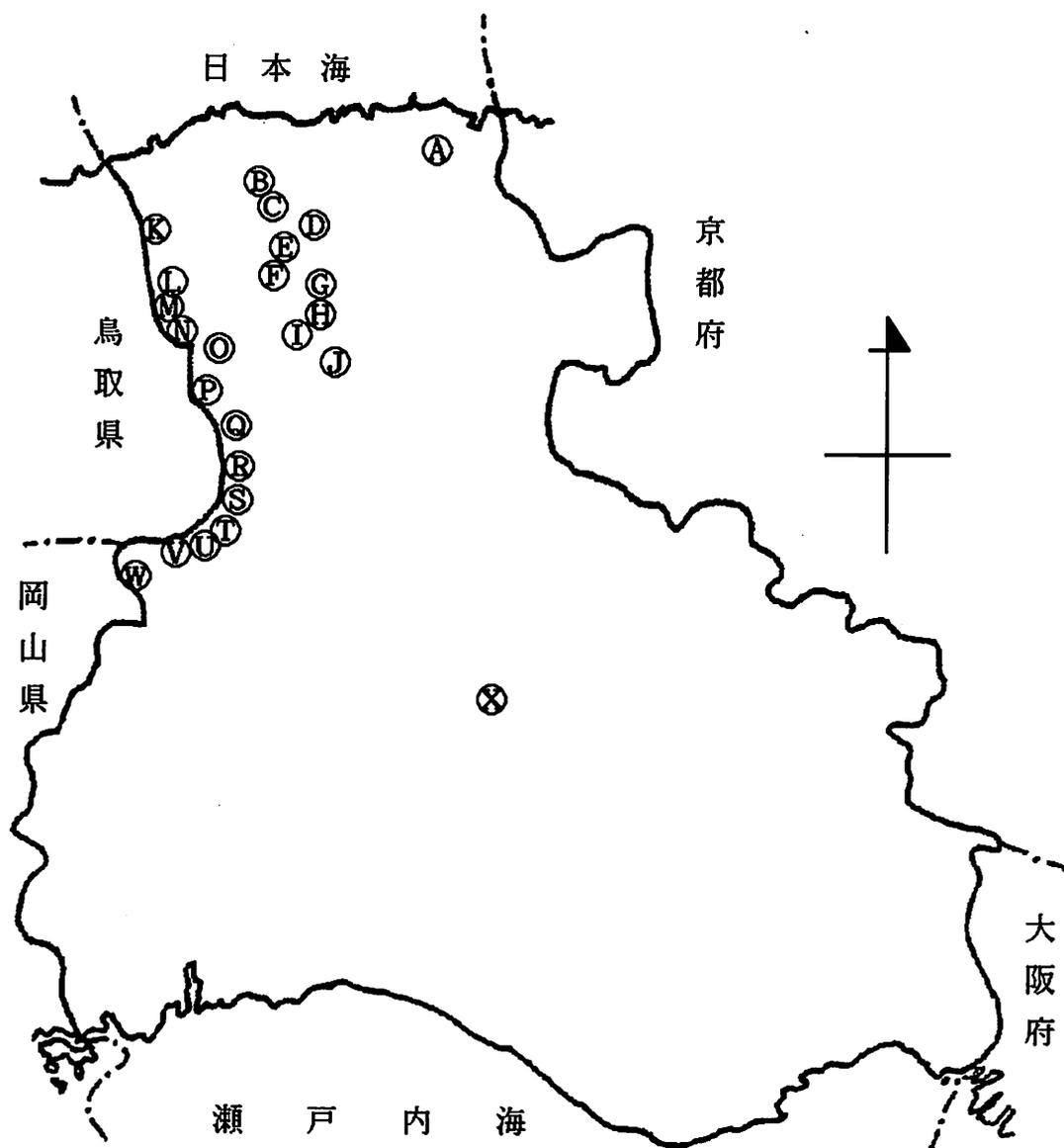
ルリクワガタ *Platycerus delicatulus* Lewis

城崎郡日高町蘇武岳?		佐藤邦夫	調査
産卵マーク	1993-X-11		
産卵マーク	1993-X-27		
宍粟郡波賀町氷ノ山坂ノ谷林道		佐藤邦夫	調査
1♂1♀	1993-XI-22		

コルリクワガタ *P. acuticollis* Y. Kurosawa

美方郡浜坂町本谷		永幡嘉之	調査
1♀	1993-IV-19	ブナ新芽	
1♂	1993-IV-19	飛翔中	
1♂	1993-XI-5	ミズナラ材中	
美方郡温泉町牛が峰山?		永幡嘉之	調査
産卵マーク	1993-IV-20		
美方郡美方町鍛冶屋?		永幡嘉之	調査
産卵マーク	1993-IV-18		

美方郡村岡町本谷奥		永幡嘉之 調査
10♂♂ 1♀	1993-IV-23	ブナ新芽
2♀♀	1993-XI-4	ソヨゴ?材中他
美方郡村岡町小城		永幡嘉之 調査
1♀	1993-IV-23	飛翔中
美方郡村岡町和佐父?		永幡嘉之 調査
1♂ (目撃)	1993-IV-23	ナナカマド新芽
美方郡村岡町蘇武岳		佐藤邦夫 調査
2♂♂ 1♀	1993-X-24	
1♂	1993-X-27	
1♂ 1♀	1993-XI-23	
城崎郡日高町蘇武岳		佐藤邦夫 調査
2♂♂	1993-X-11	
1♂ 2♀♀	1993-X-27	
城崎郡日高町金山峠付近?		佐藤邦夫 調査
産卵マーク	1993-X-27	
養父郡八鹿町妙見山?		佐藤邦夫 調査
産卵マーク	1993-X-23	
養父郡関宮町氷ノ山大段ヶ平		佐藤邦夫 調査
2♀♀	1993-X-16	
養父郡大屋町氷ノ山大段ヶ平		佐藤邦夫 調査
2♀♀	1993-X-16	
宍粟郡波賀町氷ノ山殿下コース		佐藤邦夫 調査
7♂♂ 9♀♀	1993-XI-3	
宍粟郡波賀町氷ノ山坂ノ谷林道		佐藤邦夫 調査
1♂ 2♀♀	1993-XI-22	
3♀♀	1993-XI-27	
宍粟郡千種町駒ノ尾山?		佐藤邦夫 調査
産卵マーク	1993-XI-6	



- ㊤来日岳 ㊦本谷 ㊧本谷奥 ㊨三川山 ㊩小城 ㊪和佐父 ㊫蘇武岳 ㊬金山峠 ㊭黒田 ㊮妙見山
 ㊯牛が峰山 ㊰しょうぶ池 ㊱小ツッコ ㊲畑ヶ平 ㊳鍛冶屋 ㊴小代溪谷 ㊵大段ヶ平
 ㊶殿下コース ㊷坂ノ谷林道 ㊸音水溪谷 ㊹赤西溪谷 ㊺三室山 ㊻駒ノ尾山 ㊼笠形山

兵庫県下のルリクワガタ属の分布地

この他にも数ヵ所を調査しているが、産卵マークすら発見していない。それはそれで立派な記録ではあると思うが、十分な調査をしたともいえないので、今回は秘密にしておくことにする。

また、?マークのうちの数ヵ所は、幼虫と思われるものを飼育しているので、成虫を確認してから正式な分布記録としたい。

なお、筆者らが把握している、これまでの産地は次のとおりである。

ルリクワガタ *Platycerus delicatulus* Lewis

美方郡温泉町扇ノ山、氷ノ山、宍粟郡波賀町氷ノ山、宍粟郡波賀町（音水溪谷・赤西溪谷）

コルリクワガタ *P. acuticollis* Y. Kurosawa

美方郡温泉町扇ノ山（小ツッコ・しょうぶ池・畑ヶ平）、美方郡美方町小代溪谷、美方郡村岡町黒田、城崎郡香住町三川山、城崎郡城崎町来日岳、養父郡関宮町氷ノ山、宍粟郡波賀町氷ノ山、宍粟郡波賀町赤西溪谷、宍粟郡千種町三室山、神崎郡神崎町笠形山

ルリクワガタ属ではないが、同時に次のクワガタも採集しているので報告する。

マダラクワガタ *Aesalus asiaticus* Lewis

宍粟郡千種町駒ノ尾山

佐藤邦夫 調査

1 ♀

1993-XI-6

参考文献

- 黒澤良彦・岡島秀治・山口 進（1988）クワガタムシ，保育社。
 佐藤邦夫（1993）笠形山よりコルリクワガタを発見，IRATSUME17:77。
 永幡嘉之（1993）来日岳でコルリクワガタを採集，IRATSUME17:78。
 谷角素彦（1988）但馬地方のクワガタムシ，IRATSUME12:1-10。
 田中正浩（1987）兵庫県のカワガタムシ，昆虫と自然22(7):9-14。

但馬における甲虫数種の採集記録

永幡嘉之

但馬で採集した甲虫類のうち、注目すべきと思われる数種のデータを報告する。

1. ミヤマオオハナムグリ *Protaetia lugubris* (写真1)

高橋(1987)によると、本種は兵庫県では未記録ということになっている。氷ノ山で1頭採集しているので報告する。

養父郡関宮町氷ノ山山頂 1 ex., 24-VII-1991 永幡嘉之
氷ノ山山頂小屋内の床で、もがいていたものである。

2. ミツギリゾウムシ *Baryrhynchus poweri*

分布は広いようでそれほど珍しいとは思えないが、数個体採集しているのでデータを挙げておく。

美方郡浜坂町観音山	1 ♀	1-VII-1993	永幡嘉之
" "	1 ♀	11-VII-1993	"
温泉町飯野	1 ♂	3-VIII-1992	上田尚志
村岡町本谷奥	1 ♀	23-VII-1993	永幡嘉之
" "	1 ♂	11-IX-1993	"
香住町土生	1 ♂	12-VIII-1981	佐藤邦夫

観音山ではセンノキ、本谷奥ではコナラ、飯野ではカシ類の伐木、土生ではアカメガシワ生木の衰弱部分に集まっていたものである。

3. ナガフトヒゲナガゾウムシ *Xylinada striatifrons* (写真2・3)

佐藤(1993)により西脇市での記録が報告されたが、私も高校生だった1988年7月中旬に、西脇からほど遠くない三木市大村で、夕方コナラの新しい倒木に集まっていた十数頭を採集したことがあった。しかし種名もわからぬまま、標本も残さなかった。本年、但馬でも採集することができたので、記録しておきたい。

美方郡村岡町長板	4 ♂♂ 1 ♀	19-VII-1993	永幡嘉之
" " 本谷奥	1 ♂	8-VII-1993	"
" " "	2 ♂♂	23-VII-1993	"

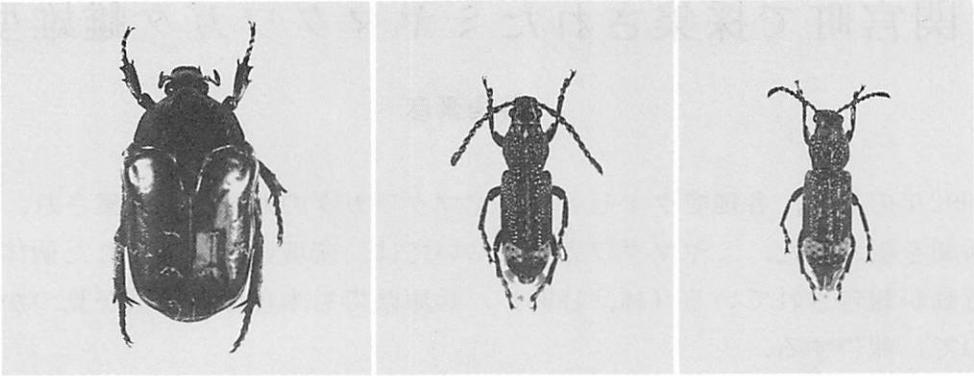


写真1

写真2 ♂

写真3 ♀

やはり、夕方広葉樹の伐採木に飛来したものを採集した。また本谷奥では晴天の日中、コナラの伐木の地表に近い下面に身動きせず静止している個体も観察した。但馬では、かつて関宮町出合の土場で、夜間に同行者が本種を採集した経験がある。

参考文献

- 高橋寿郎 (1987) ムラサキツヤハナムグリとミヤマオオハナムグリについて、
きべりはむし15(2):31-42.
佐藤邦夫 (1993) ナガフトヒゲナガゾウムシについて、IRATSUME 17:79-80.

関宮町で採集されたミヤマクワガタ雌雄型

谷角素彦

1992年の夏は、各地でクマゼミやミヤマクワガタの雌雄型が採集され、テレビや新聞を賑わした。ミヤマクワガタについては、茨城県で採集された個体の形態と行動が報告されている(林, 1993)。兵庫県でも本種の雌雄型が見つかったので、報告する。

《データ》

ミヤマクワガタ *Lucanus maculifemoratus* 雌雄型, 兵庫県養父郡関宮町葛畑,
1992-VIII-16, 西村勉採集

この個体は、採集者の西村氏より但馬自然史研究所の本庄四郎氏に届けられ、最終的に筆者が預かることになったものである。1992年8月19日付の神戸新聞に掲載されたのが、本個体である。

左右で完全に二分される雌雄型ではなく、雌の特徴の占める部分が多い個体である。体長(大あごを除く)は29mmで、かなり小型。体の右半分は雌、左半分のうち頭部は雄、前胸背板・上翅の会合線寄りには雌、側縁寄りには雄の特徴が現れている。左大あごは雄の原歯型で、下方に曲がった奇形。左触角・小あごひげも雄の特徴が現れ、右側(雌)より長い。各肢も左側が長く、左右アンバランス。このためまっすぐ歩行することが困難で、軌跡は



右に弧を描いてしまう。やや不活発だったものの、通常の個体と比べてその他の行動で際立った差異は認められなかった。行動を観察するため飼育ケースに入れて餌を与えていたところ、9月下旬まで生存した。

参考文献

林 長閑 (1993) ミヤマクワガタ雌雄型の形態と行動, 月刊むし274:4-5.

美方郡のアカネクスジトラカミキリ (2)

永幡嘉之

1993年早春に行ったアカネクスジトラカミキリ *Cylloclytus monticollisus* の分布調査の結果を本誌前号(永幡, 1993)に報告した。その後, 5月上旬まで調査を続けたが, その採集記録と得られた若干の知見について少し書いてみたい。

<採集記録> (すべて1993年, 採集者は筆者である)

兵庫県美方郡温泉町千谷	7 exs., 1 - V
" " " 肥前畑	2 exs., 3 - V
	17exs., 3 ~ 10 - V 羽脱
村岡町小城	4 exs., 3 - V
美方町茅野	1 ex., 30 - IV
" 新屋	3 exs., 25 - IV
	9 exs., 1 ~ 14 - V 羽脱
" 備	5 exs., 25 - IV

食性について

大部分の産地ではエゾエノキの枯れ枝を食しているが, 前号で触れたようにエノキからも得ている。エノキから成虫を割り出した産地は, 温泉町熊谷大熊・千谷, 美方町茅野の3か所であるが, このうち熊谷大熊, 茅野では付近にエゾエノキが見られなかった。千谷でも, 最も近いエゾエノキまでは少し離れている。熊谷大熊ではエノキに高密度で食入していたが, 千谷と茅野では枯枝はあっても僅かに小型の成虫を1頭ずつを得たのみであった。

村岡町長板・大笹・作山, 温泉町多子, 浜坂町観音山・城山・大滝などで同じようにエノキを割っても, 幼虫の食痕さえ認められなかった。特に長板では, エノキの枝が豊富に落ちていたがそれには見られず, エゾエノキの土に埋もれた1本の古い枝から成虫を発見している。温泉町千谷でも, エゾエノキからはまともに見出された。以上のような事例から, 本種はエノキも食するが, エゾエノキに対する嗜好性が極めて強いことが窺えた。

越冬中の状況について

秋に羽化した成虫は、長期間蛹室内にとどまって春に脱出するが、3月に枯枝を割っていると、蛹室全体が水浸しになっているものが高率で見られた。特に、太い枝の下面に多い。そのような水浸しの成虫は最初は動かないが、乾かしてやるとどれもが蘇生して動き出す。呼吸の停止している期間に水が染み込むのであろうが、これには雪の影響が大きいと考えられる。そして、自然状態で枝の外に脱出できるのかどうかは疑問である。

また、白い菌類が蛹室内に広がっている例も見られる。多くは壁と体の一部分に付着している程度だが、時には蛹室全体を覆っている場合もある。やはり成虫はどれも死んではいないが、程度の差はあれどれも身動きできないので、脱出はできないものと思われる。

ハチの1種に寄生されているものも見られるが、ハチの成虫はまだ採集できていない。

出現期について

4月30日、村岡町板仕野ではすでに成虫の脱出孔が見られた。5月1日から3日にかけて、温泉町肥前畑、千谷、村岡町小城では、脱出孔は空けながらも中にとどまって、外の様子を窺っている個体が多く見られた。また、そうでない個体も材の表面近くまで脱出孔を掘り進めていた。野外への脱出は、気象の変化、特に低温に対応するため極めて慎重に行われるようである。同時期に出現するキンケトラカミキリでも、脱出孔を空けたまま外を窺う個体を観察している。

越冬は稀に蛹でも行われるようで、1993年3月13日に温泉町花口のエゾエノキ材中より採集した蛹から数日後に本種が羽化した。

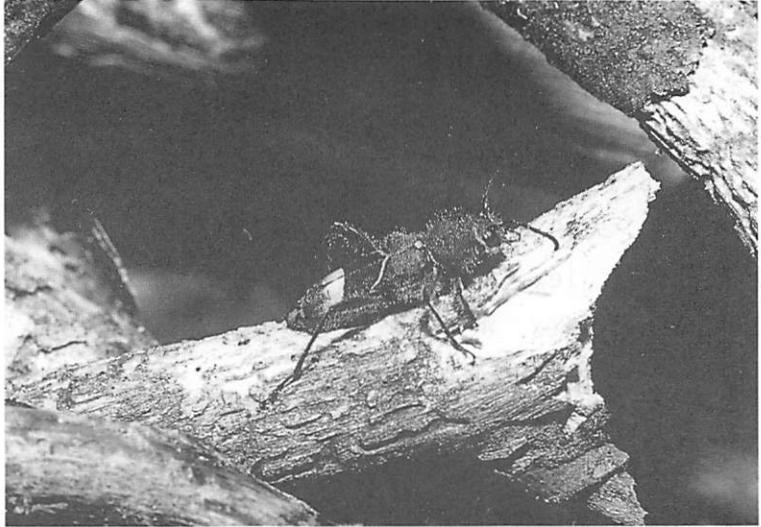
また、成虫の活動期には発生地を訪れることができなかった。

成虫の変異について

大きさに関しては個体変異に富むが、上翅の斑紋は比較的安定している。異常型として、温泉町海上で写真のような個体を採集している。なお、同じ枯枝から10頭以上採集したが、他には同じような個体は見られなかった。

一般に珍しいとされている本種だが、但馬では調査を行えば海岸部を除きほとんどの地域から発見することができた。これからもさらに綿密な分布調査を行う

とともに、野外での成虫の活動習性の観察にも力を入れていきたい。なお、岡山県の渡辺昭彦氏からは種々のご助言を頂いた。記して御礼申し上げる。



14-III-1993 温泉町海上産

*永幡（1993）で誤植があったので、訂正する。村岡町長坂→長板

参考文献

永幡嘉之（1993）美方郡のアカネキスジトラカミキリ（1），IRATSUME17:74.

キンカメムシ亜科2種の採集記録

上田尚志

オオキンカメムシとアカスジキンカメムシの但馬地方における採集記録を報告する。

1. オオキンカメムシ *Eucorysses grandis*

1983-XI, 1ex. 和田山町枚田：学校の校庭で

1993-VII-11, 1ex. 浜坂町城山：アカメガシワの花をすくってネットに入った
(採集：永幡嘉之)

2. アカスジキンカメムシ *Poecilocoris lewisi*

1987-V-15, 1ex. 和田山町糸井溪谷：オタカラコウの葉上で。幼虫

1988-VII-24, 1ex. 扇ノ山畑ヶ平：ウツギの葉上で (採集：山本一幸)

1989-VII-4, 1ex. 大岡山：山頂付近で (採集：田中穂積)

1990-IV-22, 1ex. 竹野町竹野：幼虫

1992-IV-29, 1ex. 三川山：幼虫

1992-VIII-20, 3exs. 大岡山：キブシの葉上で。卵塊および1令・2令幼虫が多数観察できた

以上の他に、養父町建屋、温泉町霧滝でも幼虫を目撃した。

エゾゼミ属 *Tibicen* 3種の採集記録

上田尚志

但馬の山地を歩くとき、あちこちでエゾゼミ類の鳴き声を聞くことができるが、採集記録はあまり報告されていない。筆者もたまたま採集したにすぎないが、記録として残しておきたい。

1. コエゾゼミ *Tibicen bihamatus*

1987-VII-31, 1♂, 扇ノ山小ヅッコ：灯火採集で

1990-VIII-7, 1♂, 氷ノ山東尾根：低木の茂み

2. エゾゼミ *Tibicen japonicus*

1993-VII-31, 1♀, 村岡町大笹：灯火採集で

1993-VIII-24, 1♂, 氷ノ山（採集：菅村定昌）

3. アカエゾゼミ *Tibicen flammatus*

1993-VIII-22, 1♀, 美方町小代溪谷：ヨモギの葉上（採集：永幡嘉之）

1993-VIII-30, 1♂, 村岡町大笹：大沼湿原内で

但馬におけるヒメハルゼミと クチキコオロギの記録

永幡嘉之

但馬海岸にはスダジイやタブノキからなる照葉樹林が広く分布しており、ベーツヒラタカミキリやクロオビトゲムネカミキリなどの南方系の昆虫が多く知られる。今回は、但馬で確認した暖地性の昆虫2種について報告する。

1. ヒメハルゼミ *Euterpnosia chibensis*

合唱性や分布の特異性からよく知られたセミである。従来、但馬では城崎温泉や豊岡市絹巻神社から知られていたが、今回新たに2産地を追加する。

美方郡浜坂町本谷	1 ♂	25-VII-1993	永幡嘉之
" 温泉町飯野	1 ♂	20-VII-1992	"

浜坂町本谷の産地は、久斗川上流域の山の斜面で二次林である。ウラジロガシが多いほかスダジイとアカガシも混じっているが、全体的にはコナラやミズナラなど落葉樹のほうが多い。尾根筋にはブナが見られ、ブナの下限とシイ・カシ類の上限とが重なるため、ブナ林でもヒメハルゼミの声は聞かれる。今回は本谷のみで確認したが、久斗川の他の支流や香住町側の斜面にも生息している可能性がある。飯野では寺社の社叢林に見られる。ウラジロガシとスダジイの古木が多い。浜坂町観音山、温泉町霧ヶ滝などには生息していないようである。

なお、鳥取市の小林一彦氏によって、香住町の佐津川上流でも1992年に確認されている。種々のご教示を頂いている同氏に御礼申し上げる。

2. クチキコオロギ *Duolandrevus coulonianus*

浜坂町居組のJR線路沿いに設けられたスギ防雪林にはスギカミキリが多いが、その採集の際、スギの樹皮下のクモの巣に直翅目の死骸が多いことに1991年の春から気づいていた。1993年になって完全な形の死骸2個体を得るとともに、生きた成虫も目撃したが採集できなかった。今回、自然林のアカマツ倒木樹皮下から越冬中の個体を採集したのでこれを機に報告する。

美方郡浜坂町居組	死骸 2 ♀ ♀	16-IV-1993	永幡嘉之
" " " (陸上岬)	1 ♂	24-XII-1993	"

ヒトクチタケとキカイガラタケ および各種キノコにて採集した甲虫

(兵庫県甲虫相資料・293)

高橋寿郎

1. ヒトクチタケで採集した甲虫

1993年4月15日，神戸市北区八多町屏風の通称金毘羅山の標高380m付近で，一本のマツに数多くのヒトクチタケが生えているのを見出した（いくらか小型の印象を受けた）。6月4日，それを調べてみた。また5月12日，その地点よりやや離れた所（標高380mくらい）にあるマツにも数個のヒトクチタケを見出したので，そちらも調べてみた。ともに従来報告してきたものと同じ顔ぶれの甲虫がやってきていたので（意外と種類数が少なかった。地域的な条件があるのではと考えたりしている），ここには採集できた甲虫類と採集個体数のみを記録しておく（一部，甲虫以外のデータも含む）。なお，次のキカイガラタケの調査とともにキノコの同定に関しては，蜂谷幸雄氏の全面的な協力を頂いている。厚く御礼を申し上げる。

1993年5月12日

オオヒラタケシキスイ *Aphenolia pseudosoronia*（ケシキスイ科）6頭
カプトゴミムシダマシ *Parabolitophagus felix*（ゴミムシダマシ科）3頭
マツヒラタカメムシ *Aradus unicolor*（ヒラタカメムシ科）4頭

1993年6月4日

オオナガキスイ *Cryptophagus enormis*（キスイムシ科）1頭
ヒゲフトコキノコムシ *Mycetophagus antennatus*（コキノコムシ科）11頭
コマダラコキノコムシ *M. pustulosus*（コキノコムシ科）2頭
カプトゴミムシダマシ *Parabolitophagus felix*（ゴミムシダマシ科）6頭
ベニモンキノコゴミムシダマシ *Platydemia subfascia*（ゴミムシダマシ科）1頭
ヒラタキノコゴミムシダマシ *Ischnodactylus loripes*（ゴミムシダマシ科）24頭

2. キカイガラタケで採集した甲虫

前記のヒトクチャタケと同じように、神戸市北区八多町屏風の標高350mおよび250mくらいの2か所にあるキカイガラタケで多くの甲虫を採集（採集は1993年5月6日が大部分であるが、5月12日に採集したものもごくわずかふくまれている）したので掲げる。そのなかには注目すべき種も得られているので、それらについて若干説明しておく。

- アオグロヒラタゴミムシ *Platynus chalconus* (オサムシ科) 1頭
- クロゲヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus armatus* (ハネカクシ科) 4頭
- ヒメフトツツハネカクシ *Mimogonus micropus* (ハネカクシ科) 1頭
- クロズシリホソハネカクシ *Tachyporus celatus* (ハネカクシ科) 1頭
- ヤマトデオキノコ *Scaphidium japonum* (デオキノコムシ科) 1頭
- アミモンヒラタケシキスイ *Physoronia hilleri* (ケシキスイ科) 2頭
- コヨツボシケシキスイ *Librodor ipsoides* (ケシキスイ科) 1頭
- クロチビオオキノコ *Tritoma niponensis* (オオキノコムシ科) 6頭
- キベリハバピロオオキノコ *T. pallidicincta* (オオキノコムシ科) 103頭
- ベニバネチビオオキノコ *T. rufipennis* (オオキノコムシ科) 47頭
- コマダラコキノコムシ *Mycetophagus pustulosus* (コキノコムシ科) 4頭
- オオメキノコゴミムシダマシ *Platydemus lynceum* (ゴミムシダマシ科) 2頭
- ツノボソキノコゴミムシダマシ *P. recticorne* (ゴミムシダマシ科) 1頭
- ベニモンキノコゴミムシダマシ *P. subfascia* (ゴミムシダマシ科) 1頭
- チビキノコゴミムシダマシ *P. sylvestre* (ゴミムシダマシ科) 1頭
- アカバコキノコムシダマシ *Pisenus insignis* (キノコムシダマシ科) 4頭
- ツヤチビキカワムシ *Chilopeltis laevipennis* (チビキカワムシ科) 1頭
- ヒメハナカメムシ *Orius sauteri* (ハナカメムシ科) 1頭

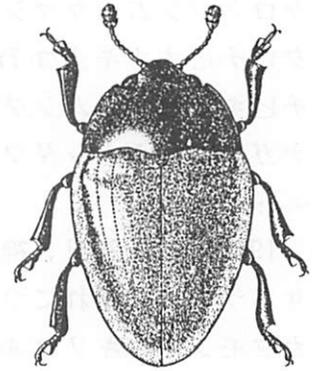
キベリハバピロオオキノコとベニバネチビオオキノコについて

兵庫県産の両種については、筆者が解説したことがある（きべりはむしVol. 11, No. 2, p. 36-37. 1983）。その際、キベリハバピロオオキノコについては久松定成博士の分布と食性の記録（新昆虫Vol. 3, No. 4, p. 144-145, 1950）を紹介した。久松博士の記述にあるように、本種の発生期は5月より6月初旬の短期のため少な

いといった印象があると考えられる。同博士は那須で多数の個体を得ている。今回、北区八多町屏風でも多数得ることができた。やはり出現期の問題であろう。従来、県下からは筆者の記録した神戸市北区藍那が知られているだけであった（この採集時期は7月で若干遅い）。

食性について久松博士はチヤミダレアミタケ、カイガラタケ、ハチノスタケを報告しているが、今回はキカイガラタケのみから得た。ちなみに藍那ではハチノスタケから得た。

ベニバナチビオオキノコも県下では相生市三濃山の記録（1 ex., 28-IV-1974）が唯一のものであったが、今回はキベリハバビロオオキノコとともに多く得られた。やはり発生期が限られていると考えられる。ちなみに、両種とも『原色日本甲虫図鑑（Ⅲ）』（1985）においては「少ない種」とされている（p. 225-226）。



ベニバナチビオオキノコ
（中條道夫，1936より）

3. 各種キノコにて採集した甲虫について

1993年に各種キノコにやって来ている甲虫類の調査を心がけた。おかげで何種類かのキノコを調べることができたので、それらについてまとめてみた。キノコにはよくわからない種が多くあり、正しく同定できていないのではと心配している。御教示、御叱正頂ければ幸いである。

A. 1993年5月20日，神戸市北区藍那，標高220m

コナラの木が切られたものが数本横積みで放置されていた。相当腐敗した状態のもので、それに若干のカワラタケがついていた。そこで採集した甲虫は、正確にはカワラタケに来ていたものばかりではなく、腐敗した材にいたものかもしれない。

- コヨツボシアトキリゴミムシ *Dolichoctis striata*（オサムシ科）2頭
- キノコアカマルエンマムシ *Notodoma fungorum*（エンマムシ科）1頭
- ガロアケシデオキノコムシ *Scaphisoma galloisi*（デオキノコムシ科）2頭
- アカミケシデオキノコムシ *S. rubrum*（デオキノコムシ科）2頭

クロミジンムシダマシ *Aphanocephalus hemisphoricus* (ミジンムシダマシ科) 2 頭
クロチビオオキノコ *Tritoma niponensis* (オオキノコムシ科) 3 頭
チビキノコゴミムシダマシ *Platydema sylvestre* (ゴミムシダマシ科) 1 頭
ナガニジゴミムシダマシ *Ceropria induta* (ゴミムシダマシ科) 1 頭

B. 1993年5月20日, 神戸市北区藍那, 標高265m.

サクラの立ち枯れについていたカワラタケに来ていたもの。
カタモンオオキノコ *Aulacochilus japonicus* (オオキノコムシ科) 7 頭
アカハバヒロオオキノコ *Neotriplax lewisi* (オオキノコムシ科) 17 頭

C. 1993年5月20日, 神戸市北区藍那, 標高250m.

道端に転がっていた大きなクヌギにぎっしりとアラゲカワキタケ?が生えており, なかにアラゲカワラタケもあった(5月26日, 同じ所で採集したものも少しふくまれる)。

クロツヤヒラタゴミムシ *Synuchus cycloderus* (オサムシ科) 1 頭
アカアシマルガタゴモクムシ *Harpalus tinctulus* (オサムシ科) 2 頭
ウスオビキノコケシキスイ *Pocadites dilatimanus* (ケシキスイ科) 3 頭
フタホシチビオオキノコ *Triplax devia* (オオキノコムシ科) 34 頭
クロチビオオキノコ *Tritoma niponensis* (オオキノコムシ科) 5 頭
ミヤマオビオオキノコ *Episcaph gorham* (オオキノコムシ科) 1 頭
ナガニジゴミムシダマシ *Ceropria induta* (ゴミムシダマシ科) 5 頭

1993年6月21日, 同じキノコより.

フタホシチビオオキノコ *Triplax devia* (オオキノコムシ科) 13 頭
ミヤマオビオオキノコ *Episcaph gorham* (オオキノコムシ科) 1 頭

1993年6月28日, 同じキノコより.

ヤマトデオキノコムシ *Scaphidium japonum* (デオキノコムシ科) 1 頭
ガロアケシデオキノコムシ *Scaphisoma galloisi* (デオキノコムシ科) 1 頭
ナガニジゴミムシダマシ *Ceropria induta* (ゴミムシダマシ科) 2 頭
キマワリ *Plesiophthalmus nigrocyaneus* (ゴミムシダマシ科) 2 頭

フタホシチビオオキノコ *Triplax devia* (オオキノコムシ科) 78頭
 ミヤマオビオオキノコ *Episcaph gorham* (オオキノコムシ科) 1頭
 キボシヒゲナガゾウムシ *Phaulimia confinis* (ヒゲナガゾウムシ科) 2頭
 スネアカヒゲナガゾウムシ *Autotropis distinguendus* (ヒゲナガゾウムシ科) 1頭

1993年7月15日, 同じキノコより.

フタホシチビオオキノコ *Triplax devia* (オオキノコムシ科) 15頭
 ホソオオクチキムシ *Allecula cryptomeriae* (クチキムシ科) 1頭

D. 1993年6月4日, 神戸市北区八多町屏風, 標高250m.

道端に転がっていたかなり大きなクヌギのようであった。それに大きなシイタケらしきものが3, 4個ついていた。それに来ていた甲虫である。6月10日に採集したものも一緒にしている。

ウスイロタマキノコムシ *Pseudocolenis hilleri* (タマキノコムシ科) 2頭
 ネアカマルクビハネカクシ *Tachinus trifidus* (ハネカクシ科) 1頭
 アカハバヒロオオキノコ *Neotriplax lewisi* (オオキノコムシ科) 1頭
 クロチビオオキノコ *Tritoma niponensis* (オオキノコムシ科) 1頭
 セモンホソオオキノコ *Dacne picta* (オオキノコムシ科) 6頭
 ヒゲプトコキノコムシ *Mycetophagus antennatus* (コキノコムシ科) 1頭
 コマダラコキノコムシ *M. pustulosus* (コキノコムシ科) 2頭
 コマダラコキノコムシ *M. pustulosus* var. *funnebris* (コキノコムシ科) 1頭
 ナガニジゴミムシダマシ *Ceropria induta* (ゴミムシダマシ科) 6頭
 ツノボソキノコゴミムシダマシ *Platydemus relictus* (ゴミムシダマシ科) 5頭
 ベニモンキノコゴミムシダマシ *P. subfascia* (ゴミムシダマシ科) 67頭
 カタモンヒメクチキムシ *Mycetochara mimica* (クチキムシ科) 1頭
 ヨツボシヒメナガクチキ *Holostraphus lewisi* (ナガクチキムシ科) 1頭

E. 1993年6月21日, 神戸市北区藍那, 標高250mくらい.

コフキサルノコシカケと思われるキノコに, ルリオオキノコが多く来ていた。このキノコを後2回ほど見に来たが, そのつどルリオオキノコがいた。

ルリオオキノコ *Aulacochilus sibiricus* (オオキノコムシ科) 15頭

1993年6月28日，同じキノコより．

ルリオオキノコ *Aulacochilus sibiricus* (オオキノコムシ科) 11頭
ユミアシオオゴミムシダマシ *Setenis valgipes* (ゴミムシダマシ科) 2頭
キノコアカマルエンマムシ *Notodoma fungorum* (エンマムシ科) 1頭

1993年7月15日，同じキノコより．

ルリオオキノコ *Aulacochilus sibiricus* (オオキノコムシ科) 3頭

F. 1993年6月21日，神戸市北区藍那，標高250m．

道端に積み重ねられていた樹にカワラタケが多くついていた．それに来ていたもの．

ヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus tibialis* (ハネカクシ科) 1頭
ウスオビキノコケシキスイ *Pocadites dilatimanus* (ケシキスイ科) 1頭
トウヨウダナエテントウダマシ *Danae orientalis* (テントウムシダマシ科) 1頭
ルリテントウダマシ *Endomychus gorhami* (テントウムシダマシ科) 12頭
クロミジンムシダマシ *Aphanocephalus hemisphericus* (ミジンムシダマシ科) 6頭
マルツヤキノコゴミムシダマシ *Platydema kurama* (ゴミムシダマシ科) 1頭
ヨツボシホソアリモドキ *Anthicus valgipes* (アリモドキ科) 1頭

1993年7月15日，同じカワラタケより．

ルリテントウダマシ *Endomychus gorhami* (テントウムシダマシ科) 5頭
ガロアケシデオキノコムシ *Scaphisoma galloisi* (デオキノコムシ科) 4頭
コヨツボシアトキリゴミムシ *Dolichoctis striata* (オサムシ科) 1頭
マツヒラタカメムシ *Aradus unicolor* (ヒラタカメムシ科) 1頭

1993年7月28日，同じカワラタケより．

クロミジンムシダマシ *Aphanocephalus hemisphericus* (ミジンムシダマシ科) 1頭
ヒゴキノコゴミムシダマシ *Platydema higonium* (ゴミムシダマシ科) 16頭
ツノボソキノコゴミムシダマシ *P. recticorne* (ゴミムシダマシ科) 1頭
ヤマトエグリゴミムシダマシ *Uloma excisa lewisi* (ゴミムシダマシ科) 3頭
ナガニジゴミムシダマシ *Ceropria induta* (ゴミムシダマシ科) 1頭

クロホシテントウゴミムシダマシ *Derispia maculipennis* (ゴミムシダマシ科) 1 頭
 ヒメキマワリ *Plesiophthalmus laevicollis* (ゴミムシダマシ科) 2 頭
 キマワリ *P. nigrocyaneus* (ゴミムシダマシ科) 5 頭

1993年9月16・24日, 同じカワラタケより.

ツブデオキノコムシ *Pseudobironium lewisi* (デオキノコムシ科) 3 頭
 ツヤヒラタキノコハネカクシ *Gyrophaena laevior* (ハネカクシ科) 3 頭
 ルリテントウダマシ *Endomychus gorhami* (テントウムシダマシ科) 1 頭
 クロミジンムシダマシ *Aphanocephalus hemisphericus* (ミジンムシダマシ科) 3 頭
 ヒゴキノコゴミムシダマシ *Platydema higonium* (ゴミムシダマシ科) 4 頭
 アオツヤキノコゴミムシダマシ *P. marseuli* (ゴミムシダマシ科) 3 頭
 ツノボソキノコゴミムシダマシ *P. recticorne* (ゴミムシダマシ科) 4 頭

1993年10月12日, 同じカワラタケより.

アカハバヒロオオキノコ *Neotriplax lewisi* (オオキノコムシ科) 4 頭
 クロミジンムシダマシ *Aphanocephalus hemisphericus* (ミジンムシダマシ科) 4 頭
 ホソマダラホソカタムシ *Sympanotus pictus* (ホソカタムシ科) 1 頭
 マルツヤキノコゴミムシダマシ *Platydema kurama* (ゴミムシダマシ科) 2 頭
 アオツヤキノコゴミムシダマシ *P. marseuli* (ゴミムシダマシ科) 1 頭
 ナガニジゴミムシダマシ *Ceropria induta* (ゴミムシダマシ科) 2 頭
 クチキムシ *Allecula melanaria* (クチキムシ科) 1 頭

G. 1993年6月28日, 神戸市北区藍那, 標高250m.

道端に転がっていた樹にヒイロタケがついていた.

ガロアケシデオキノコムシ *Scaphisoma galloisi* (デオキノコムシ科) 1 頭
 ツマキケシデオキノコムシ *S. haemorrhoidale* (デオキノコムシ科) 1 頭
 ナガニジゴミムシダマシ *Ceropria induta* (ゴミムシダマシ科) 4 頭
 キマワリ *Plesiophthalmus nigrocyaneus* (ゴミムシダマシ科) 2 頭

H. 1993年9月16・24日, 神戸市北区藍那, 標高230m.

スギヒラタケと思われるキノコに来ていたもの.

アカミケシデオキノコムシ *Scaphisoma rubrum* (デオキノコムシ科) 2頭
ヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus tibialis* (ハネカクシ科) 2頭
カタモンオオキノコ *Aulacochilus japonicus* (オオキノコムシ科) 1頭
ホソチビオオキノコ *Triplax japonica* (オオキノコムシ科) 2頭
シベリアチビオオキノコ *T. sibirica* (オオキノコムシ科) 2頭

1993年10月12日, 同じキノコより.

ヤマトデオキノコ *Scaphidium japonum* (デオキノコムシ科) 1頭
ヤマトヒラタキノコハネカクシ *Gyrophaena niponensis* (ハネカクシ科) 2頭
ホソチビオオキノコ *Triplax japonica* (オオキノコムシ科) 14頭
シベリアチビオオキノコ *T. sibirica* (オオキノコムシ科) 1頭
カタモンオオキノコ *Aulacochilus japonicus* (オオキノコムシ科) 2頭
ミツアナツツキノコムシ *Cis seriatulus* (ツツキノコムシ科) 1頭

このキノコの近くにカワラタケがあり, そこにはアカハバビロオオキノコが多数来ていた.

以上, 各種キノコに来ていた甲虫類は15科45種におよんでいる. はじめに記録したヒトクチャタケとキカイガラタケに来ていたものには若干違った種があるので, さらに種類数は増える. また, 個体数がものすごく多いものがいたりして, 全部採集などということはとうてい不可能である. キノコ類に来ていた甲虫類は種類もさまざまで個体数も多い. いわゆるキノコ類を生活のよりどころにしている甲虫類は多種多様で, これらの生態を調べるのは楽しい.

ハネカクシ科のオオキバハネカクシ属 *Oxyporus* とニセオオキバハネカクシ属 *Pseudoxyporus* のすべての種は, キノコに集来することが知られている. 林長閑博士(1986)によると, 山道などでよく目にするヒラタケのカサの裏側にケシキスイ科の甲虫が発見され, これらの幼虫をねらってオオキバハネカクシが見られる.

筆者はキノコにやって来るオオキバハネカクシとの出会いはあまりない. 最初にお目にかかったのは神戸の烏原貯水池畔で, 1975年10月10日, イクチオオキバハネカクシ *Oxyporus germanus* がキノコにやって来て飛び回っているのを採集したものである. 同年の11月14日, 神戸市北区藍那でもアカバオオキバハネカクシ *Oxyporus maculivetrus* をキノコから採集した. 強く印象に残っているのは1979年7

月22日、小倉滋、三木進両氏に宍粟郡坂の谷林道に採集に連れていってもらった時、ヒラタケのまわりをオオキバハネカクシ *Oxyporus japonicus* が多数飛び交っているのに出会ったことである。その時は7 exs. を採集した（以上の採集標本は、県立人と自然の博物館に保管されている）。

キノコをめぐる甲虫のいくらかについて、記録をまとめてみた。参考文献は前報（きべりはむし Vol. 21, No. 1, 1993）を見て頂きたい。キノコの同定に参考とした文献のみ、次に記しておく。

今関六也・本郷次雄（1973）カラー自然ガイド（8）きのこ，保育社，大阪。

松田一郎・成田伝蔵（1986）きのこの見分け方，学研，東京。

菅原光二（1991）きのこ，小学館，東京。

今関六也他（1993）日本のきのこ，山と溪谷社，東京。

【訂正とお詫び】

IRATSUME17号に、次のような誤りがありました。謹んでお詫びするとともに、以下のように訂正させていただきます。

- ・ P. 77の下から14行目 協力得（誤）→ 協力を得（正）
- ・ P. 78の上から3行目 芳賀町（誤）→ 波賀町（正）
- ・ P. 78の上から10行目 こちと（誤）→ こちに（正）
- ・ P. 79の下から9行目 合山町谷山（誤）→ 合山町木谷山（正）
- ・ P. 79の写真説明 左）中畑町産 右）合山町産（誤）→ 左）♂ 右）♀（正）

《編集後記》

原稿不足は、編集担当者の慢性的な悩みです。今回も投稿が少なく気をもんでいたところ、締切後にいくつかの原稿が届きました。大急ぎで編集作業を行い、なんとか18号を予定どおり発行することができました。中身を見ると、永幡嘉之氏と高橋寿郎氏のページが大半を占めています。普段から目的意識をもって動いている人は、やはり強いのです。執筆者のうち、但馬在住者は上田尚志氏ひとりだけ。“但馬むしの会”の現状を如実に物語っているようです。但馬で生まれた昆虫同好会なのに、寂しいかぎりです。「地元会員よ、奮起せよ！」

編集作業は、原稿整理と校正を谷角、ワープロ入力と訂正を石田、という形でほぼ役割分担しています。このコンピで何度かやりとりを行い、最終版下を作成、そしてIRATSUMEが完成するのです。ここで、我々からのお願い。ワープロ原稿が増え編集が楽になったとはいうものの、処理しづらい原稿は相変わらず存在します。そこで、1. 投稿規定をよく読み、それに従って原稿を作成してください。データや参考文献の表記法、コンマやピリオドを使用することなどに注意してください。2. データ（地名・日付など）や文献などの引用は、確認してから正確に行ってください。編集サイドでもチェックしていますが、調べようのないものもあります。データが誤った形で発表されると、後に混乱を残します。3. ワープロやパソコンで原稿を作成される方は、機種名をお知らせください。

IRATSUME No.18

1994年5月20日発行

発行者：但馬むしの会

〒669-68 兵庫県美方郡温泉町

黒井和之方

編集者：谷角素彦・石田達也

《IRATSUME 投稿規定》

1. 原稿は横書き原稿用紙に、わかりやすく書いてください。
2. 報文には「～である」調を用い、句読点もはっきりさせてください。
3. ワードプロで原稿作成する場合は、句読点にはピリオドとコンマを使用してください。また、印字したものとフロッピーディスクの両方をお送りください。
4. 種名は和名を主としますが、記録報告の場合には学名も表記してください。その際、学名は必要最小限にとどめてください。
5. 分類の紛らわしい種や貴重な記録には、標本写真を付けてください。標本撮影は編集事務局でも行えますので、ご利用ください。
6. 採集データは、次のような形式で記してください。
1♂2♀, 兵庫県美方郡温泉町青下, 1989-V-15, 黒井和之採集。
7. 参考文献は、次のような形式で記してください。
佐藤邦夫 (1987) 但馬地方のカミキリムシ, IRATSUME11:72-90。
8. 付図や表組は、そのまま使える完全版下として仕上げてください。IRATSUMEの誌面にうまく収まるよう工夫してください。
9. 原稿は十分に推敲・校正してから、ご投稿ください。とくに、わかりにくい表現や無駄な表現がないか、主語と述語がはっきりしているか、数字や学名のスペルに誤りがないかなどについて、チェックしてください。
10. 誤同定やデータに大きな誤りを含んでいる原稿は、掲載をお断りする場合があります。
11. 寄稿者は掲載誌3部を受け取り、原稿掲載料として1000円を事務局（郵便振替：01120 2-16245 但馬むしの会）に支払います。
12. 原稿についてのお問い合わせは、谷角素彦まで。

